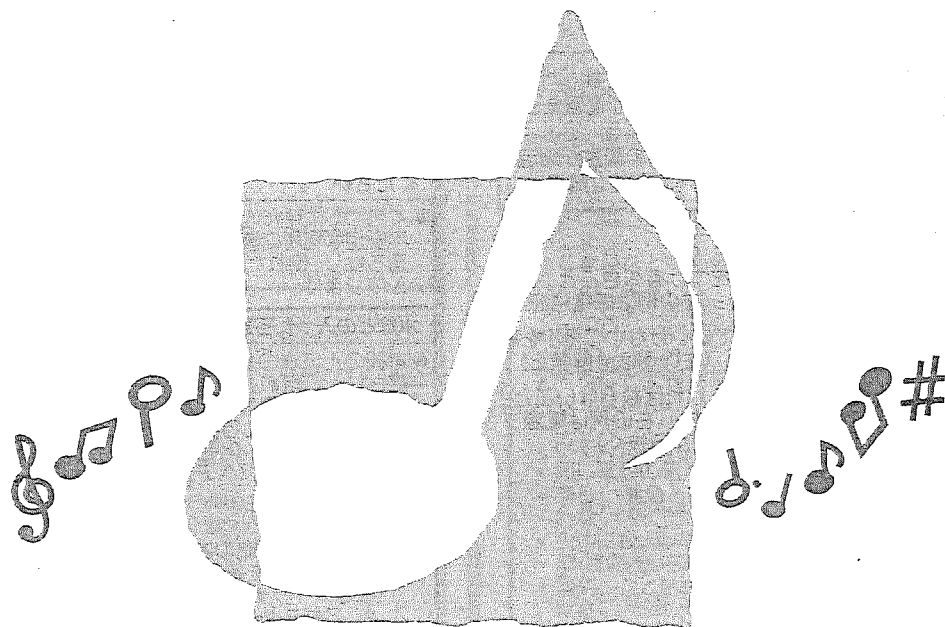


LK-65 LK-70BL

取扱説明書（保証書別添）

ご使用前に「安全上のご注意」をお読みの上、
正しくお使いください。
本書は、お読みになったあとも、大切に保管して
ください。



CASIO

本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。



記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

安全上のご注意




このたびは、カシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。






- ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示の意味は次のようになっています。







| | | |
|--|-----------|---|
|  | 警告 | この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。 |
|  | 注意 | この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |






絵表示の例

-  △ 記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。(左の例は感電注意)
-  ⊘ 記号は「してはいけないこと」を意味しています。(左の例は分解禁止)
-  ● 記号は「しなければならないこと」を意味しています。(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)

|  警告 | |
|---|--|
| ACアダプターの取り扱いにご注意ください | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店またはカシオテクノ・サービスステーションで新しいACアダプターをお買い求めください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 ●電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。 ●本機指定のACアダプターをご使用ください。指定以外のACアダプターを使用すると、火災・感電の原因となります。 |  |
| 本機やスタンドを不安定な場所に置かないでください | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。 | |
| 水などの入った容器などを置かないでください | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●本機の上に次のものを置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。 * 水などの入った容器。(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など) * 小さな金属物。(ヘアピン、縫い針、硬貨など) * 燃えやすいもの。 <p>万一、異物が本機の内部に入った場合は、次の処置を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源スイッチを切る。 2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。 3. 電池が入っている場合には電池を抜く。 このとき、電池に直接手で触れないでください。電池が高温になっていたり、電解液が噴出する場合があります。 4. 販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。 |    |

安全上のご注意

|  警告 | |
|---|--|
| 分解・改造はしないでください | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●本機、および付属品、別売品を分解、または改造しないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご依頼ください。 |  |
| 異常・故障状態で使用しないでください | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態で使用しないでください。また、電源が入らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。お客様による修理は危険です。絶対におやめください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源スイッチを切る。 2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。 3. 電池が入っている場合には電池を抜く。このとき、電池に直接手で触れないでください。電池が高温になっていたり、電解液が噴出する場合があります。 4. 修理を販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに依頼する。 |   |
| 本機を落としたときは | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●万一、本機を落としたり、破損した場合は、次の処置を行ってください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源スイッチを切る。 2. ACアダプター本体をコンセントから抜く。 3. 電池が入っている場合には電池を抜く。このとき、電池に直接手で触れないでください。電池が高温になっていたり、電解液が噴出する場合があります。 4. 販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。 |   |
| ポリ袋をかぶらないでください | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●本機や付属品または別売品が入っているポリ袋をかぶらないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。窒息の原因となります。 | |

|  注意 | |
|--|---|
| ACアダプターについて | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●電源コードをストーブ等の熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●ACアダプターをコンセントから抜くときは、必ずACアダプター本体を持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり切れたりして、火災・感電の原因となることがあります。 ●濡れた手で、コンセントに差し込んであるACアダプターに触れないでください。感電の原因となることがあります。 ●旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプター本体をコンセントから抜いてください。 ●使用後は本機の電源スイッチを切り、ACアダプター本体をコンセントから抜いてください。 ●ACアダプターは年1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因となることがあります。 |    |
| 乾電池について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●電池の誤った使い方は、破裂、液もれにより、けがや、液もれの付着による家具などの変色の原因となることがあります。 ●次のことを必ずお守りください。 * 極性(+)の向きを、本体表示通りに正しく入れてください。 * 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全、液もれ防止のため、必ず電池を本機から抜いてください。 * 同じ種類の電池を使ってください。 * 新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。 * 火中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱をしないでください。 * 消耗したときはすぐに取り出してください。 * 充電は絶対にしないでください。 | |
| 移動させるときは | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから抜き、その他の外部の接続線ははずしたことを確認の上、行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 |  |

安全上のご注意

⚠ 注意

お手入れについて

- お手入れの際は、安全のためACアダプター本体をコンセントから抜いて行ってください。また、電池が入っている場合には、電池を抜いて行ってください。



設置場所について

- 湿度の高い場所やほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿機のそばなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本機を、家具などの塗装面に直接置かないでください。本機底面のゴム足と塗料が反応し、塗装面が汚れたり、傷つくことがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くか、スタンドをご使用ください。



本機に重いものを置かないでください

- 本機に重いものを置かないでください。倒れたり、落ちたりしてけがの原因となることがあります。

音量について

- 本機のみ、あるいは本機をヘッドホン、アンプ、スピーカーなどと組み合わせて使用する場合、設定によっては難聴になる程度の音量となることがあります。大きい音量で長時間ご使用しないでください。万一、聴力の低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

液晶表示について

- 液晶表示を強く押ししたり、強い衝撃を与えないでください。液晶表示のガラスが割れてけがの原因となることがあります。
- 液晶表示が割れた場合、表示内部の液体には絶対に触れないでください。皮膚の炎症の原因となることがあります。
- * 万一、口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- * 目に入った時、皮膚に付着した場合は、清浄な流水で最低15分以上洗浄した後、医師に相談してください。

⚠ 注意

本機の上やスタンド*に乗らないでください

- 本機の上やスタンドに乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

スタンド*について

- スタンドに記載されている組み立ての説明にしたがって、しっかりと組み立ての上、本機を正しく設置してご使用ください。ネジが正しい位置にしっかりと固定されていないと、本機の位置がずれていたりすると、スタンドが倒れたり、本機が落ちたりして、けがの原因となることがあります。

※ スタンドは別売品です。

電池が消耗したときの状態について

下記のような状態になった場合は、電池が消耗しています。速やかに、新しい電池とお取り替えください。

- 電源ランプが暗くなった。
- 電源が入らなくなった。
- 液晶表示がうすくなったり、ちらついたりする。
- 音量が小さくなった。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと、時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れる。
- 大きな音を出すと、液晶表示がうすくなったり、ちらついたりする。
- 鍵盤を押していないのに音が出続ける。
- 指定の音色とは異なる音を発音する。
- リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。
- 鍵盤の光が発音時に暗くなる。
- MIDIを接続して曲を再生すると、電源が切れる。音が劣化する。音が小さくなる。

主な特長

本機は次のような特長を備えたキーボードです。

■ 137音色で演奏できます。(137音色) ■

オーケストラ楽器やシンセサウンド、ドラムセットなど、本体で137音色が楽しめます。

■ 100種類のリズムに合わせて演奏できます。(100リズム) ■

ロックやポップス、ジャズなど100種類のリズムを備えています。

■ 一人でアンサンブル演奏のような楽しさが味わえます。(自動伴奏機能) ■

コードを指定するだけでリズム、ベース音、コード楽器の伴奏が自動的に演奏されます。

■ 120曲(LK-65)/125曲(LK-70BL)の自動演奏曲を鳴らして楽しむことができます。 ■

「喜びの歌」や「シングル・ベル」などの自動演奏曲を内蔵しています。曲を聴いたり、曲のメロディーなどを消してその部分を自分で弾いたりすることができます。

■ 鍵盤の光*に合わせて、曲の演奏をすることができます。(3ステップレッスン) ■

自動演奏曲の鍵盤の光を追いかけて、初めは鍵盤を弾くタイミングをおぼえ、次に自分のペースで、最後に普通の速さで演奏できるようになります。

※直射日光の下や非常に明るい照明の下では、鍵盤が光っているのがわかりづらくなります。

■ 5色のバックライトを備えた大型液晶画面に、鍵盤を押さえるための指使いや、五線譜などを表示し、キーボード演奏の手助けをします。 ■

指使いはキーボード初心者向けに無理のない押さえ方を表示します。また、画面のバックライトには、5色のバリエーションがあり、機能ごとに色を楽しむことができます。

■ 演奏内容を録音してオリジナル曲が作れます。(メモリー機能) ■

2パートの演奏内容を本体内に録音して聞くことができます。自動伴奏機能と組み合わせることで、本格的なアンサンブルの曲作りも行えます。

■ DTM用の入力キーボード/音源として利用できます。(GM対応) ■

コンピューターを利用したDTM(デスクトップ・ミュージック)を楽しむためのGM(General MIDI)音色を内蔵。DTM用の入力キーボード/音源として利用できます。また市販のGM用ミュージック・データを楽しむ用途にも最適です。

■ 受信したMIDIメッセージで鍵盤が光ります。 ■

市販のGM用データの指定したチャンネルで鍵盤を光らせることができます。また、そのチャンネルの音のみを消すことができるので、その部分を自分で弾くこともできます。

■ サウンドに残響音を加えて臨場感が出せます。(リバープ機能) ■

サウンドに残響音を加えるリバープ機能を内蔵しています。リバープの種類には、ルーム、ステージ、ホールがあり、臨場感豊かな音が楽しめます。

目次

| | |
|--------------------------------|-----|
| 安全上のご注意 | 表紙裏 |
| 主な特長 | 3 |
| 目次 | 4 |
| 各部の名称 | 6 |
| 液晶表示の見方 | 7 |
| すぐ使いたい方に | 8 |
| 電源について | 9 |
| 家庭用 100V 電源で使うときには | 9 |
| 電池で使うときには | 9 |
| オートパワーオフ機能/電源切り忘れのお知らせ機能 | 10 |
| 設定とメモリー内容について | 10 |
| 接続について | 11 |
| 基本的な操作を試してみましょう | 13 |
| 音を出してみましょう | 13 |
| 音色を選ぶには | 13 |
| リハーブの効果を試してみましょう | 13 |
| 鍵盤の光を消すには | 14 |
| メトロノームを使うには | 14 |

| | |
|-------------------------------|----|
| 自動伴奏を鳴らしてみましょう | 15 |
| リズムを選ぶには | 15 |
| リズムを鳴らすには | 15 |
| テンポを調節するには | 16 |
| コード自動伴奏を鳴らすには | 16 |
| イントロを入れるには | 18 |
| フィルインを入れるには | 18 |
| 同じリズムで演奏パターンを変化させるには | 19 |
| バリエーションのリズムにフィルインを入れるには | 19 |
| 伴奏とリズムを同時にスタートさせるには | 19 |
| エンディングを付けて曲を終わらせるには | 19 |
| 伴奏の音量を変えるには | 19 |

| | |
|--------------------------|----|
| ソングバンクの曲を鳴らしてみましょう | 20 |
| 曲を選ぶには | 20 |
| 曲を鳴らすには | 20 |
| 曲のテンポを調節するには | 21 |
| 曲を一時停止するには | 21 |
| 曲を早戻しするには | 21 |
| 曲を早送りするには | 21 |
| メロディーの音色を変えるには | 22 |
| 全曲を通して聴くには | 22 |

| | |
|---|----|
| ソングバンクの曲を練習してみましょう (3ステップレッスン) | 23 |
| ステップ1: 弾くタイミングを覚えます | 24 |
| ステップ2: 弾く鍵盤、指使い、強弱を覚えます | 25 |
| ステップ3: 普通の速さで弾いてみましょう | 26 |

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 演奏を録音してみましょう | 27 |
| トラックについて | 27 |
| 演奏をそのまま録音してみましょう | 28 |
| 録音した演奏を聴いてみましょう | 29 |
| メロディーの演奏を重ね録音してみましょう | 30 |
| 特定のトラックを消去するには | 31 |

| | |
|--------------------------|----|
| 設定を変えてみましょう | 32 |
| レイヤー機能を利用するには | 32 |
| スプリット機能を利用するには | 32 |
| レイヤーとスプリットを同時に使うには | 33 |
| タッチレスポンス機能を利用するには | 34 |
| トランスポーズ機能を利用するには | 34 |
| チューニング機能を使うには | 35 |
| バックライトの色の設定を変更するには | 35 |

| | |
|----------------------|----|
| MIDIを使ってみましょう | 36 |
| MIDIについて | 36 |
| GMについて | 37 |
| MIDIの設定を変えるには | 37 |
| 本機で送受信可能なメッセージ | 41 |

| | |
|--------------|----|
| 困ったときは | 43 |
|--------------|----|

| | |
|--------------|----|
| 資料 | 45 |
| トーンリスト | 45 |
| リズムリスト | 45 |

| | |
|--------------------|----|
| 音色別発音域表 | 46 |
| ドラム音色リスト | 47 |
| フィンガードコード一覧表 | 48 |

| | |
|-----------------------|----|
| ガシオ電子楽器用ソフトのご紹介 | 49 |
|-----------------------|----|

| | |
|---------------|----|
| ご使用上の注意 | 49 |
|---------------|----|

| | |
|------------|----|
| 製品仕様 | 50 |
|------------|----|

| | |
|-----------------------|----|
| 保証・アフターサービスについて | 51 |
|-----------------------|----|

| | |
|----------------------------|----|
| MIDIインプリメンテーション・チャート | 巻末 |
|----------------------------|----|

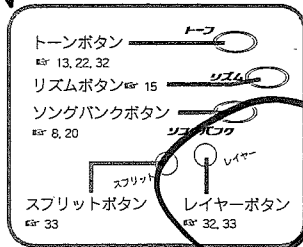
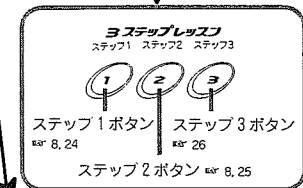
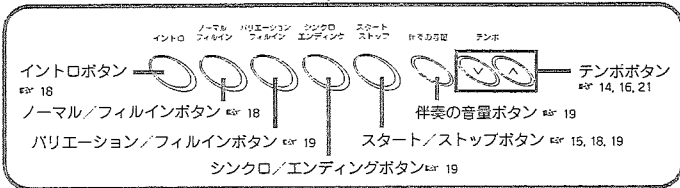
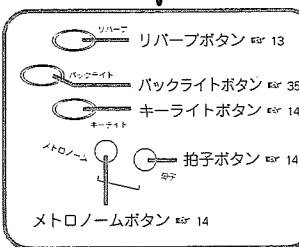
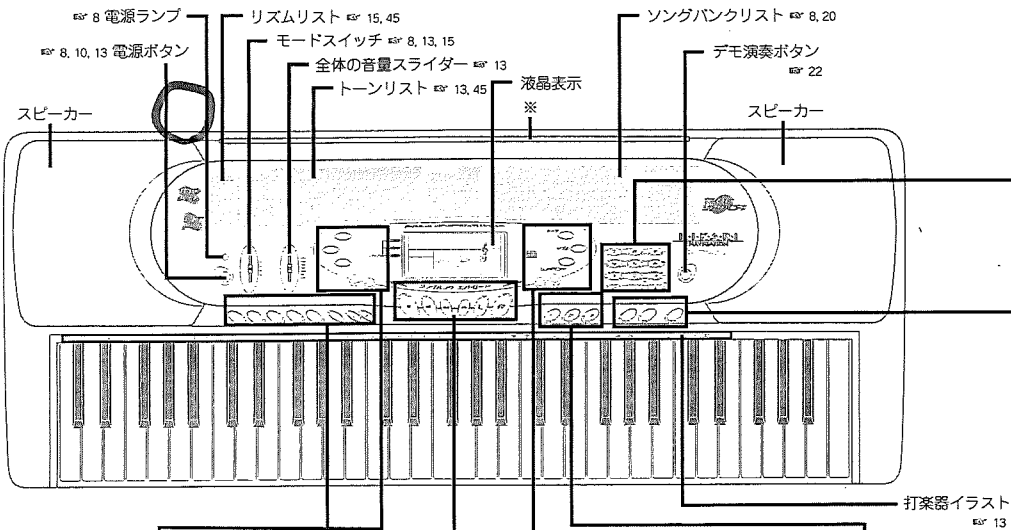
★ 内蔵曲以外の曲を練習したい方は、
付属の資料をご参照ください。

各部の名称

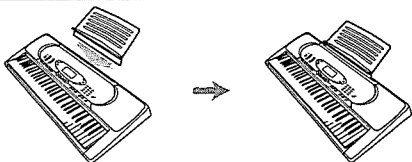
- 数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されています。
- 下記のイラストは、LK-65のものを使用しています。

重要 ● スピーカーのネット部は、大切に扱ってください。特に、鋭利なもので触れないでください。破損したり、音が歪む原因となります。

★ 内蔵曲以外の曲を練習したい方は、付属の資料をご参照ください。

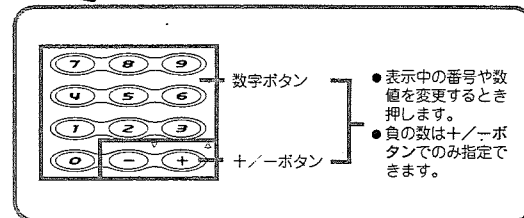
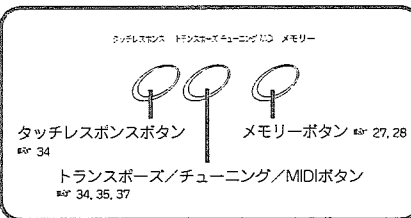
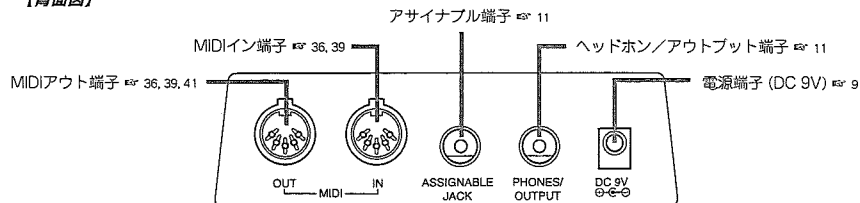


※譜面立ての立て方
譜面立ては、本体の上面にある溝に差し込んでお使いください。



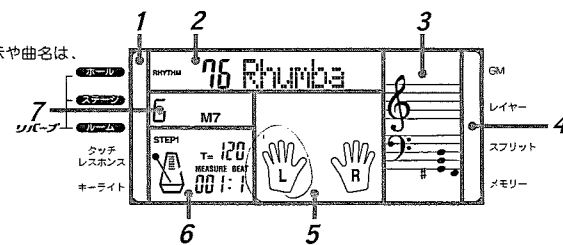
各部の名称

【背面図】



【液晶表示の見方】

※説明に使われている表示や曲名は、LK-65のものです。



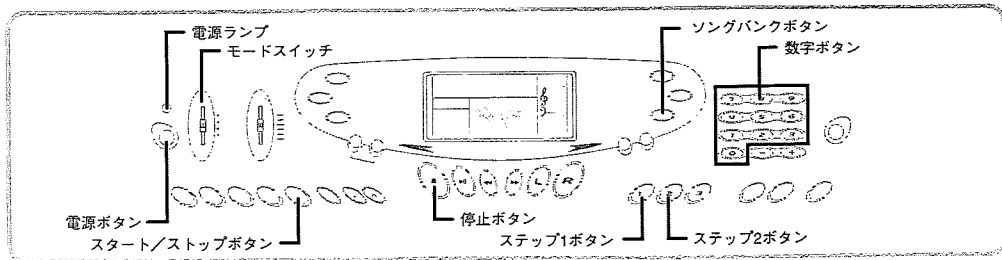
- リバーブ、タッチレスポンス、キーライトの各機能を使用しているとき、それに対応するドットが点灯します。
- 音色番号/音色名や、リズム番号/リズム名、曲番号/曲名を表示したり、メモリー機能などさまざまな機能の表示にも使われます。また、音色 (TONE) /リズム (RHYTHM) /ソングバンク (SONG BANK) の設定時に対応するシンボルが点灯します。
- 弾いた鍵盤の音の高さや、メモリー機能の演奏内容、コードフォーム、MIDIで受信したデータ*1などを五線表示します。C6~C7の音の高さの表示は五線譜上に1オクターブ低く音符を表示しオクターブアップマーク (ova) *2を表示します。また、指定のペダルを接続し、ペダルを踏んだときにペダルマーク (ped) を表示します。
※1 表示できる範囲C2~C7より、高い音や低い音を受信したときは、表示されません。
※2 オクターブアップマーク (ova) を表示した状態では、C2~B2は表示されません。
- GMモード、レイヤー、スプリット、メモリー機能の各機能を使用しているとき、それに対応するドットが表示されます。
- 3ステップレッスン、ソングバンク演奏時に鍵盤の押さえ方、押す強さ、指くりの方向などを表示します。また、自動演奏しているパートやメモリー機能で使用するトラックを“L” “R” で表示します。
- リズムや自動伴奏、メモリー機能を利用するとき小節数、拍数、メトロノーム、テンポ (1分間に演奏される拍数) また、3ステップレッスン使用時はステップ番号を表示します。
- 自動伴奏、ソングバンク演奏時にコードネームが表示されます。

【NOTE】

- 本書中では、液晶画面の図が機能説明や操作説明などと共に掲載されています。これらの図は、それぞれの説明の中で一例として挙げているもので、数値や文字表示などは必ずしも本体と一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 電源を入れた直後、液晶表示の明るさが不安定になることがあります。数秒後には明るさが安定するようになります。

液晶表示のバックライトは、長時間使用すると暗くなる場合があります。表示が暗くなり見にくくなった時は、お買い上げの販売店またはカシオテクニカルサービスセンターに交換をご依頼ください。有償にて交換いたします。

すぐ使いたい方に



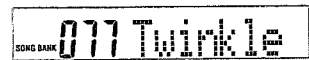
本機に内蔵の自動演奏曲を、光のガイドに従って弾きながら、3つのステップでマスターできます。ここではステップ1、2を使って演奏してみましょう。

※説明に使われている表示や曲名は、LK-65のものです。

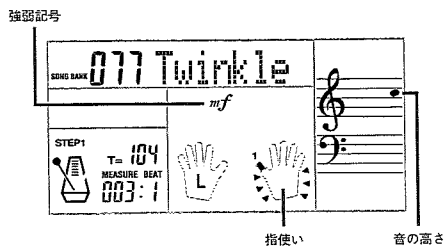
1. 電源ボタンを押して電源をオンにします。
⇒ 電源ランプが点灯します。
2. モードスイッチを“ノーマル”の位置に合わせます。
3. ソングバンクボタンを押します。



4. ソングバンクリストからお好きな曲を選び、数字ボタンで選んだ曲の番号（3桁）を押します。
例：“077きらきら星（TWINKLE TWINKLE LITTLE STAR）”の場合は、“0→7→7”の順番に押します。

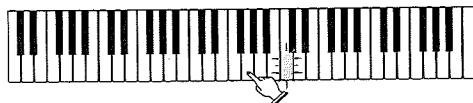


5. ステップ1ボタンまたはステップ2ボタンを押します。
⇒ カウントが鳴り待機状態になります。初めに押さえる鍵盤が点滅します。
6. メロディーを弾いてみましょう。
⇒ 液晶表示には指使い、音の高さ、強弱記号が表示されます。



7. レッスンを途中で止めるときは、停止ボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

- 操作5でステップ1を押したとき
 - 鍵盤を押してください。
 - メロディーを弾く速さに合わせて、サブメロディー（オブリガード）がついていきます。
- 光っていない鍵盤を押してもメロディーが鳴ります。



- 操作5でステップ2を押したとき
 - 点灯している鍵盤を押してください。



- 点灯している間、鍵盤を押さえます。
（操作4でソングバンクリストの以下の曲（両手演奏の曲）を選んだときは、鍵盤を押すと同時に光が消えます。）
LK-65： 010, 011, 018～020, 031～051, 054～056, 060～062
LK-70BL： 005～007, 020～023, 031～054, 057～059, 063～065
- 次に押さえる鍵盤が点滅します。
- 正しい鍵盤を押さえてメロディーを弾くと、サブメロディー（オブリガード）がついてきます。

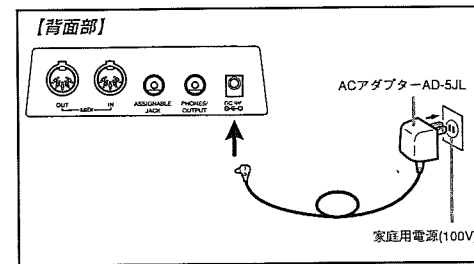
電源について

本機は家庭用100V電源、電池が使える2電源方式です。ご使用後は、必ず電源を切ってください。

家庭用100V電源で使うときには

本機指定のACアダプターを接続してください。

本機指定ACアダプターの型式：AD-5JL



ACアダプターについて

警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 本機指定のACアダプターをご使用ください。指定以外のACアダプターを使用すると、火災・感電の原因となります。

注意

- 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプター本体をコンセントから抜いてください。
- 使用後は本機の電源を切り、ACアダプター本体をコンセントから抜いてください。

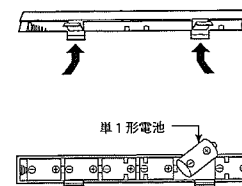
重要

- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。

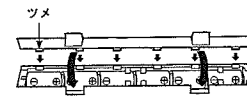
電池で使うときには

電池を入れる前には、必ず電源を切ってください。

1. 本機底面部の電池ケースのフタをはずします。
2. 単1形電池6本を入れます。
 - ⊕ ⊖の向きに注意してください。



3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。



- ★電源を入れたまま電池を交換すると、正常に機能しない場合があります。この場合、一度電源を切ってから再び電源を入れ直してください。

電池について

- 電池持続時間は、通常演奏にて下記の通りです。

- マンガン電池使用時……約4時間*

※常温にて、適切な音量で使用した場合の標準値です。大きめの音量や極端な低温下で使用すると、電池持続時間が短くなります。

- 下記のような状態になった場合は、電池が消耗しています。速やかに、新しい電池とお取り替えください。

- 電源ランプが暗くなった。
- 電源が入らなくなった。
- 液晶表示がうすくなったり、ちらついたりする。
- 音量が小さくなった。
- 音質が劣化した。
- 大きな音を出すと、時々音が途切れる。
- 大きな音を出すと、突然電源が切れる。
- 大きな音を出すと、液晶表示がうすくなったり、ちらついたりする。
- 鍵盤を押していないのに音が出続ける。
- 指定の音色とは異なる音を発音する。
- リズムやデモ演奏曲などが正しく発音されない。
- 鍵盤の光が発音時に暗くなる。
- MIDIを接続して曲を再生すると、電源が切れる。音が劣化する。音量が小さくなる。

注意

電池の誤った使い方は、破裂、液もれにより、けがや、液もれの付着による家具などの変色の原因となることがあります。次のことを必ずお守りください。

- 極性(⊕/⊖)の向きを、本体表示通りに正しく入れてください。
- 旅行などで長期間本機をご使用にならないときは、安全、液もれ防止のため、必ず電池を本機から抜いてください。
- 同じ種類の電池を使ってください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。
- 火中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱をしないでください。
- 消耗したときはすぐに取り出してください。
- 充電は絶対にしないでください。

オートパワーオフ機能/電源切り忘れのお知らせ機能

■オートパワーオフ機能について

電源を入れたまま、本機を放置すると、自動的に電源が切れる機能です。
無駄な電力消費を防ぐ自動節電機能で、操作完了後約6分で自動的に電源が切れます。
この場合、電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。

【参考】 ● アダプターを使用しているときは、オートパワーオフ機能は働きません。

■電源切り忘れのお知らせ機能

電源を入れたまま本機を放置すると、約6分後に鍵盤が光り、液晶表示のバックライトの色が順に変わって、電源の切り忘れをお知らせします。(このとき、音は出ません。) この場合、各ボタンや鍵盤を押すと、電源を入れたときの状態に戻ります。

【参考】 ● 電池を使用しているときは、電源切り忘れのお知らせ機能は働きません。

■オートパワーオフ機能/電源切り忘れのお知らせ機能をキャンセルするには

- トーンボタンを押したまま、電源を入れます。

★ このときは、放置しておいても電源が切れたり、電源切り忘れのお知らせ機能が働くことはありませんので、状況に応じてご利用ください。

★ 電源を入れ直すとオートパワーオフ機能が働くようになります。

設定とメモリー内容について

■設定の保持

本機では、電源ボタンの操作やオートパワーオフ機能の働きで電源が切れた後も、選んだ音色やリズムの種類など演奏のための主な設定が記憶されており、次に電源を入れたときに同じ設定になります。

※演奏のための主な設定

音色番号、レイヤー、スプリット、スプリットポイント、タッチレスポンス、リバーブ、リズム番号、テンポ、伴奏の音量、GMモード オン/オフ、アンプMIDIアウト オン/オフ、アサインナブル端子の設定、キーボードチャンネル、ソングバンク番号、バックライト色

■メモリー内容の保持

メモリー機能を使って本機に記憶させた内容も、電源ボタンの操作やオートパワーオフ機能の働きで電源が切れた後も保たれます。

■電源の役割

上記の設定やメモリーは、本機への電源供給が続いている限り保たれます。電池を入れずにACアダプターを抜いたり、電池作動中に電池が消耗した場合など、本機への電源供給が絶たれると、各設定は初期状態に戻り、記憶内容は消去されます。

■設定や記憶内容を保つためには

本機への電源供給が途切れると、各設定は初期状態に戻り、記憶内容は消去されます。設定や記憶内容を保つためには、下記の事項を守ってください。

- 電池交換は、ACアダプターを接続した状態で行ってください。
- ACアダプターを抜くときは、消費していない電池を入れておいてください。

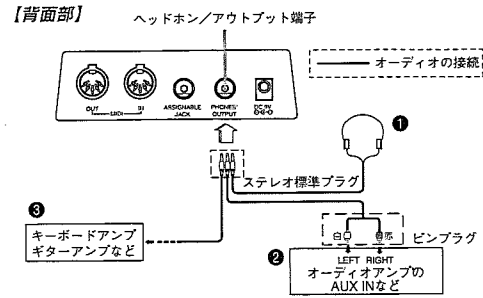
なお、上記の操作は電源ボタンで電源を切ってから行ってください。

接続について

■ヘッドホン/アウトプット端子について

【準備】 接続の際は、本機の全体の音量を（接続する機器側に音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量にしてください。

【背面部】



●ヘッドホンをつなぐには(図①)

内蔵スピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がななく演奏を楽しめます。

●オーディオ機器と接続するには(図②)

市販の接続コード(標準プラグ×1、ピンプラグ×2)で図のように接続します。その際、片側(本機につなぐ側)がステレオ標準プラグのものをご利用ください。(モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。) 通常はオーディオ機器側のインプットセレクターで、接続した端子(AUX IN等)に切り替えます。オーディオ機器の取扱説明書もよくお読みください。

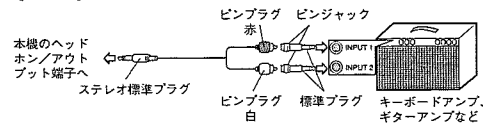
●楽器用アンプと接続するには(図③)

相手側の機器に応じて、市販の接続コード*を使用します。

【参考】 ※ 本機につなぐ側:ステレオ標準プラグのもの
アンプにつなぐ側:左右両チャンネルの信号が入るようにする。
(どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。)

楽器用アンプなどと接続するとき、音量は本機の側を小さめにし、アンプ側で調節してください。

【接続例】

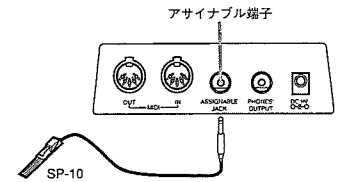


■コンピューターとの接続について

コンピューター(ソフトウェアシーケンサー)やシーケンサー(ハードウェアシーケンサー)に接続して使用することもできます(36ページ「MIDIを使ってみましょう」参照)。

■アサインナブル端子について

アサインナブル端子にサスティンペダル(SP-2またはSP-10)を接続すると、下記のような使い方ができます。それぞれの設定方法については、「アサインナブル端子の設定」(40ページ)をご参照ください。



●サスティンペダルとして使うと

- ピアノなど減衰音では…ピアノのダンパーペダル同様、鍵盤で弾いた音に余韻の残る効果。
- オルガン系の持続音では…ペダルを踏んでいる間、鍵盤で弾いた音が鳴り続ける「ホールド効果」。

●ソステヌートペダルとして使うと

- サスティンペダルと同様の効果が、鍵盤で弾いた音にかかります。
- サスティンペダルとの違いは効果をかけるタイミングにあります。
- 鍵盤を押してから、その鍵盤を離す前にペダルを踏めば、その音に対してのみ効果がかかります。

●ソフトペダルとして使うと

鍵盤で弾いた音の音色が小さくなります。

●リズムのスタート/ストップとして使うと

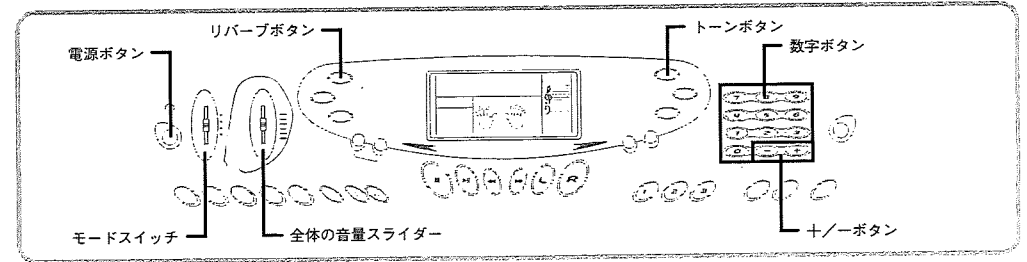
ペダル操作で、リズムのスタート/ストップボタンと同じ働きをします。

接続について

■付属品・別売品について

- 付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

基本的な操作をしてみましょう



ここでは本機の基本操作について説明します。

音を出してみましょう

1. 電源ボタンを押します。
2. モードスイッチを“ノーマル”の位置に合わせます。
3. 全体の音量スライダーを調節します(弾く前は小さめにしておきましょう)。
4. 鍵盤を弾いてみましょう。
⇒ 表示されている音色が鳴ります。

音色を選ぶには

本機には137種類の音色が内蔵されています。ここで、どんな音色が入っているのかを試してみましょう。

1. トーンリストから鳴らしたい音色を選び、その番号を確認します。
2. トーンボタンを押します。



3. 数字ボタンを使って、音色の番号を数字(3桁)で入力します。
例: “032 アコースティックベース (ACOUSTIC BASS)”なら、“0→3→2”と入力します。



⇒ アコースティックベースの音色で鍵盤演奏できます。

■NOTE

- 音色は、必ず3桁で指定してください(例: 032=0→3→2)。1桁目または2桁目の入力後、何も入力しないと、数秒後に元の音色番号表示に戻ります。
- +/-ボタンで音色番号を1つずつ切り替えて呼び出すこともできます。

- 音色番号080～103および112～127の音色名は、本体に記載されていません。各音色名は、巻末の「トーンリスト」をご参照ください。(45ページ参照)
- 音色番号128～136のドラムセットは、鍵盤ごとに異なる打楽器が割り当てられています。(鍵盤上の打楽器イラストおよび47ページ参照)

■同時発音数について

- 本機は、同時に最大24音まで発音します。ただし、一部の音色では2種類の音色を組み合わせるため最大12音になるものもあります。
- リズムや自動伴奏が鳴っているときは、鍵盤での演奏音の同時発音数が少なくなります。

■デジタルサンプリングの音色について

本機で鳴らすことのできる音色のいくつかは、「デジタルサンプリング」という電子技術により、生の楽器の音を録音・加工したものです。こうした音色の中には、元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げたものがあります。

一部の音色で、鍵盤によって音質や音量が若干異なる箇所がありますが、これは上記のようなサンプリング処理における音域の境目(スプリットポイント)で、故障ではありません。

リバーブの効果を変えてみましょう

リバーブはサウンドに残響音を加えて臨場感をだす機能です。

リバーブボタンを押して、リバーブの種類を決めます。

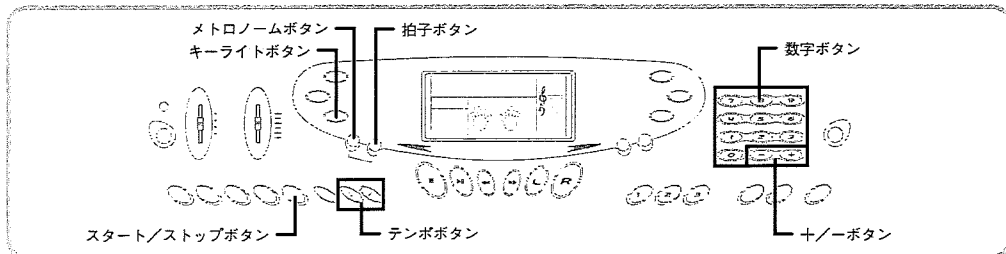
- “ホール”のドットが点灯しているとき:
コンサートホールのような残響感が得られます。



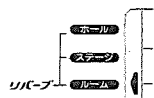
- “ステージ”のドットが点灯しているとき:
ライブハウスのような残響感が得られます。



基本的な操作をしてみましょう



- “ルーム”のドットが点灯しているとき：スタジオのような残響感が得られます。

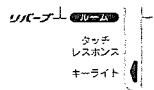


- ドットが何も点灯していないとき：リバーブは“オフ”になっています。



鍵盤の光を消すには

- キーライトボタンを押して機能のオン/オフを切り替えます。
- キーライトのドットが消灯しているときは鍵盤は光りません。



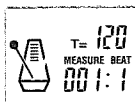
■ NOTE ■

- 電源を入れ直すとキーライトはオンになります。

メトロノームを使うには

本機はメトロノーム音を鳴らすことができます。メトロノーム音には小節の1拍目に鳴るベル音と、その他の拍に鳴るクリック音があります。伴奏（リズム）の無い曲の練習に活用できます。

1. メトロノームボタンを押してメトロノーム音を鳴らします。



2. 拍子ボタンを押し、数字ボタンまたは+/-ボタンで拍子を決めます。

1、2、3、4、5、6拍子が設定できます。

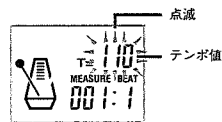


■ NOTE ■

- 1拍子を選んだ場合は、ベル音は鳴らず、クリック音のみが鳴ります。拍子数にかかわらず練習するのに便利です。

3. テンポボタンを押してテンポを決めます。

- ▲ 数値が増える（テンポが速くなる）
- ▼ 数値が減る（テンポが遅くなる）



■ NOTE ■

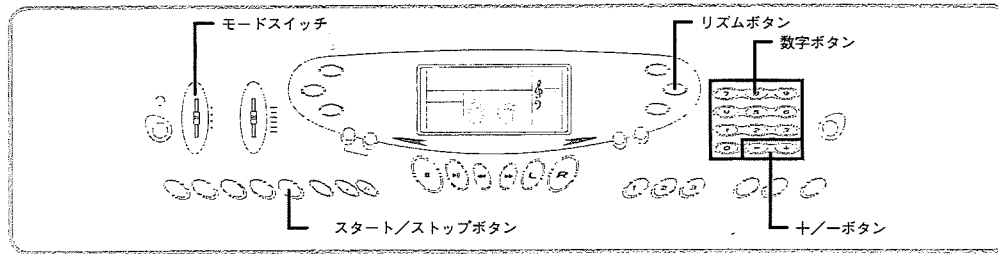
- テンポの数値の点滅中は、数字ボタン、+/-ボタンでも調節できます。
- ※ “090”のように3桁で入力します。
- テンポボタンの▲/▼ボタンを同時に押すと、現在指定されているリズムのお勧めのテンポになります。

4. メトロノームボタンまたはスタート/ストップボタンを押すとメトロノーム機能がオフになります。

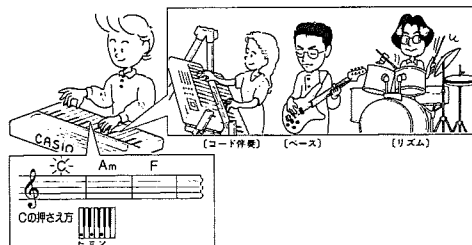
■ NOTE ■

- ステップレッスンのステップ1、ステップ2ではメトロノーム機能は使用できません。
- メトロノーム機能がオンのときに、伴奏を使用していない自動演奏曲またはステップレッスンのステップ3のみを開始するとメトロノーム音を鳴らしながら自動演奏曲を演奏することができます。そのとき、拍子は自動演奏曲の推奨の設定に変わります。
- 伴奏を使用していない自動演奏曲またはステップレッスンのステップ3のみを開始中にメトロノーム機能をオンにすると、メトロノーム音を鳴らしながら自動演奏曲を演奏することができます。このとき、拍子は自動演奏曲の推奨の設定に変わります。

自動伴奏を鳴らしてみましょう



本機では曲に出てくるコードを押さえることで、ベースパート（低音部）とコード伴奏パートを鳴らすことができます。これらのパートはリズム（打楽器音）と連動しており、リズムの種類ごとに、その雰囲気合った音色が鳴ります。これらの伴奏に合わせて右手でメロディーを弾けば、一人でもアンサンブル演奏のような楽しさが味わえます。



リズムを選ぶには

本機にはロック、ポップス、ジャズなど、100種類のリズムが搭載されています。

1. リズムリストから鳴らしたいリズムを選び、その番号を確認します。
2. リズムボタンを押します。



3. 数字ボタンで、リズムの番号を数字（2桁）で入力します。
- 例：“76 ルンバ (RHUMBA)”なら“7→6”と入力します。
→ ルンバのリズムが選ばれます。



■ NOTE ■

- リズム番号00～99のリズム名は、本体に記載されていません。各リズム名は、巻末の「リズムリスト」をご参照ください。（45ページ参照）
- リズム番号は、+/-ボタンでも指定できます。

リズムを鳴らすには

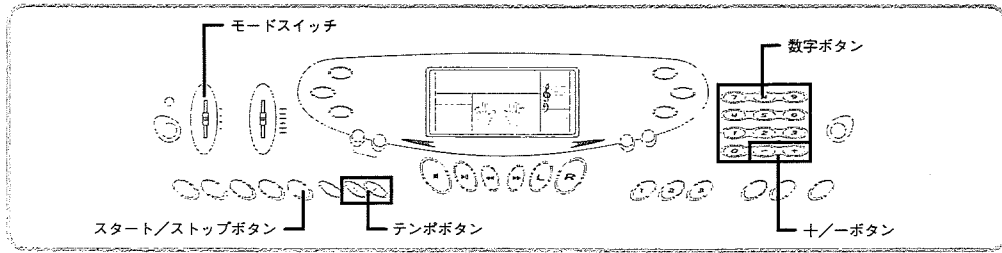
選択したリズムをスタートさせて鍵盤演奏が楽しめます。

1. モードスイッチを“ノーマル”の位置に合わせます。
 2. スタート/ストップボタンを押します。
- 選ばれたリズムが鳴り始めます。
• スタート/ストップボタンを押すと停止します。

■ NOTE ■

- モードスイッチが“ノーマル”の位置のときは、すべての鍵盤がメロディー鍵盤となります。

自動伴奏を鳴らしてみましょう



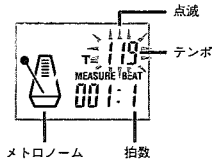
テンポを調節するには

テンポ（1分間に演奏される拍数）を40～255の範囲で調節します。テンポの設定は、ソングバンク、3ステップレックス、コード自動伴奏、メモリー機能、メトロノーム機能に対して有効です。

テンポボタンを押します。

▲……数値が増える（速くなる）

▼……数値が減る（遅くなる）



NOTE

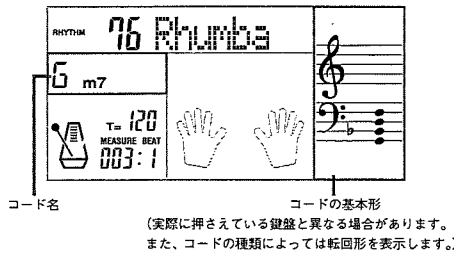
- テンポの数値の点減中は、数字ボタン^{*}、+/-ボタンでも調節ができます。
- * "090" のように3桁で入力します。
- テンポボタンの▲/▼ボタンを同時に押すと、現在指定されているリズムのお勧めのテンポになります。

コード自動伴奏を鳴らすには

準備

- リズムを選び、テンポを調節します。

- モードスイッチを“カシオコード”“フィンガード”“フルレンジコード”のいずれかに合わせ、コードの指定方法を選びます。
- スタート/ストップボタンを押してリズムをスタートさせます。
- 伴奏鍵盤でコードを指定してみましょう。
 - 伴奏鍵盤や具体的な方法については、モードスイッチの設定に応じて、「カシオコードについて」…17ページ
「フィンガードについて」…17ページ
「フルレンジコードについて」…17ページをご確認ください。



コード名
コードの基本形
(実際に押さえている鍵盤と異なる場合があります。また、コードの種類によっては転回形を表示します。)

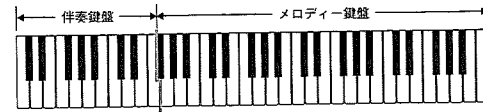
- ⇒ 選んだリズムと運動したコード自動伴奏が始まります。
- スタート/ストップボタンを押すと自動伴奏が停止します。

自動伴奏を鳴らしてみましょう

カシオコードについて

この方法では、コードを知らなくても伴奏鍵盤の押し方により4種類のコードが簡単に指定できます。伴奏鍵盤とコードの指定方法は次のとおりです。

【カシオコードの伴奏/メロディー鍵盤】



重要

- カシオコードの伴奏鍵盤は「コード指定スイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏はメロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。

| コードの種類 | 例 |
|---|------------------------|
| メジャーコード 伴奏鍵盤の上側にアルファベットで音名が書いてあります。コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します(伴奏鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません)。 | C 音名 → (Cメジャー) |
| マイナーコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。 | Cm (Cマイナー) |
| セブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。 | C7 (Cセブンス) |
| マイナーセブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、伴奏鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。 | Cm7 (Cマイナーセブンス) |

NOTE

- 2つ目以降の伴奏鍵盤は、1つめより右側なら白鍵/黒鍵を問わずどれでも使用できます。

フィンガードについて

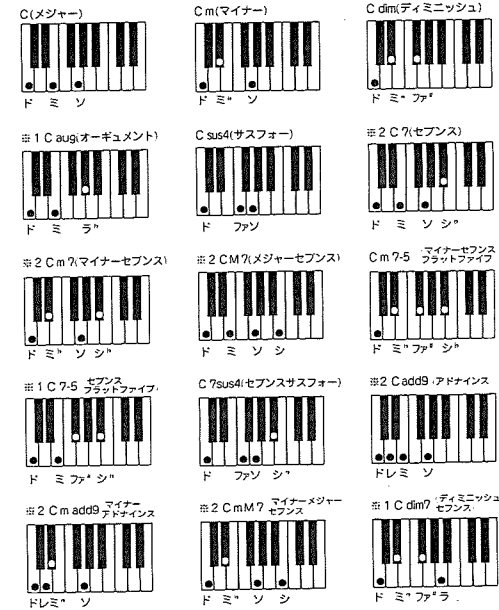
この方法で指定できるコードは15種類です。伴奏鍵盤とコードの指定方法(“C”を根音とした場合)は次のとおりです。

【フィンガードの伴奏/メロディー鍵盤】



重要

- フィンガードの伴奏鍵盤は「コード指定スイッチ」としてのみ働き、通常の鍵盤演奏はメロディー鍵盤の範囲でのみ可能となります。



★ 根音が“C”以外のときは、伴奏鍵盤の範囲内での対応となります(48ページ「フィンガードコード一覧表」参照)。

- ※1: 転回形(下のNOTEを参照)は使えません。最低音が根音となります。
- ※2: 5度のソの音を押さなくても、同じコードが指定できます。

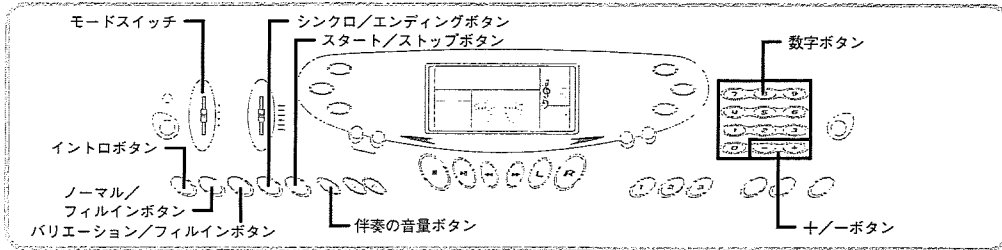
NOTE

- 伴奏鍵盤であれば上記の押さえ方(例えばCを「ドミソ」と押さえる)だけでなく、転回形(コードの構成音は同じで並び方の違う押さえ方。例えばCを「ミソド」や「ソドミ」と押さえる)も有効です。
 - …※1のコードを除く。
- 原則として上記の例のように、コードの構成音すべてを押さえる必要があります。構成音を省略したり1音のみを押さえても無効となり、意図したコードは指定されません。
 - …※2のコードを除く。
- キーライトがオンとき、伴奏鍵盤も、指定されているコードに従って光ります。このとき、押した通りには光らないことがあります。(例: Cメジャーのコードを転回形「ミソド」で押さえても、光るのは「ドミソ」になります。)

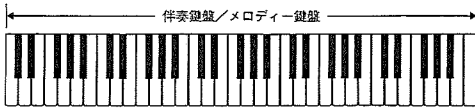
フルレンジコードについて

この方法で指定できるコードは、フィンガードの15種類に23種類加えた計38種類です。この場合、本機が判別できるコードの指定方法で鍵盤を3つ以上押したときに限り、コードが指定されます。それ以外(本機が判別できないコードや2つ以下の鍵盤を押している場合)ではメロディー鍵盤と同様に発音しますので、すべての鍵盤でコードの指定とメロディー演奏が行えます。

自動伴奏を鳴らしてみよう



【フルレンジコードの伴奏/メロディー鍵盤】

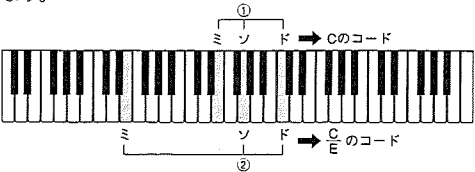


《本機で判別できるコード》

| 分類 | コードの種類 |
|--------------|---|
| フィンガードの対象コード | 15種類 (17ページ「フィンガードについて」参照) |
| それ以外のコード | 23種類 以下は、「C」をベース音とした場合の例です。 C6、Cm6、C69 C [♯] 、D、E、F、G、A ^b 、B ^b C、C、C、C、C、C、C、C、 B、C ^m 、D ^m 、F ^m 、G ^m 、A ^m 、B ^b m C、C、C、C、C、C、C、C、 Dm7 [♯] 、A ^b 7、F7、Fm7、Gm7、A ^b add9 C、C、C、C、C、C、C、C、 |

(例) Cメジャーの場合

Cメジャーの構成音は、「ド・ミ・ソ」です。
鍵盤で「ド・ミ・ソ」と押さえると、下記のように指定されます。

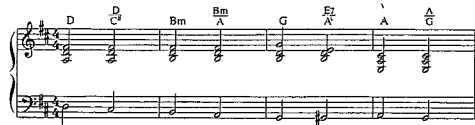


《ポイント》

- 転回形についてはフィンガードと同様です。(①)
- 最低音と右隣の音との間に、半音が6つ以上はさまる場合には、最低音をベース音として判別します。(②)

●フルレンジコードを使って演奏してみよう

音色 016、リズム 05、テンポ 070
シンクロ/エンディングボタンを押す。



イントロを入れるには

リズム演奏や自動伴奏を始める前にイントロ（前奏）を加えることができます。

【準備】

- リズムを選び、テンポを調節する。
- モードスイッチでコードの指定方法を選ぶ。

イントロボタンを押します。

- 選んだリズムに応じたイントロを開始します。
- このとき伴奏鍵盤を弾くと、イントロに自動伴奏が加わります。

■ NOTE ■

- イントロが鳴り終わると通常のリズムに戻ります。
- イントロが鳴っているときに、バリエーション/フィルインボタンを押すと、イントロが鳴り終わってからバリエーションのリズムになります。
- イントロが鳴っているときに、シンクロ/エンディングボタンを押すと、イントロが鳴り終わってからエンディングのリズムになります。

フィルインを入れるには

フィルインとは演奏中のリズムパターンを一時的に変化させた演奏で、リズムにメリハリを付けることができます。

1. スタート/ストップボタンを押してリズムを鳴らします。
2. ノーマル/フィルインボタンを押します。
→ リズムにフィルインが入ります。

■ NOTE ■

- イントロが鳴っている最中にボタンを押しても、フィルインは鳴りません。

自動伴奏を鳴らしてみよう

同じリズムで演奏パターンを変化させるには

通常のリズムと演奏パターンを異なるリズム（バリエーション）に切り替え、伴奏の雰囲気を変化させます。

1. スタート/ストップボタンを押してリズムを鳴らします。
2. バリエーション/フィルインボタンを押します。
→ 選んだリズムのバリエーションに切り替わります。

■ NOTE ■

- 通常（ノーマル）のリズムに戻すには、ノーマル/フィルインボタンを押します。

バリエーションのリズムにフィルインを入れるには

バリエーションのリズムに変化を付けます。

バリエーションのリズムが鳴っているときに、バリエーション/フィルインボタンを押します。

→ バリエーションのリズムにフィルインが入ります。

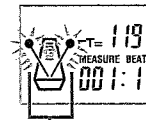
伴奏とリズムを同時にスタートさせるには

伴奏鍵盤を押すと同時にリズムとコード伴奏を同時にスタートさせる方法です。

【準備】

- リズムを選び、テンポを調節する。
- コードの指定方法を選ぶ。

1. シンクロ/エンディングボタンを押してシンクロススタートの待機状態にします。



点滅

2. 伴奏鍵盤でコードを指定します。
→ リズムとコード伴奏が同時にスタートします。

■ NOTE ■

- コードの指定方法をノーマルにしておくと、リズムのみが鳴り始めます。
- 鍵盤を押す前にイントロボタンを押しておくと、イントロからシンクロススタートします。
- 鍵盤を押す前にバリエーション/フィルインボタンを押しておくとバリエーションからシンクロススタートします。
- シンクロススタートの待機状態のときに、もう一度シンクロ/エンディングボタンを押すと待機状態が解除されます。

エンディングを付けて曲を終わらせるには

選ばれたリズムに最適なエンディングを加え、伴奏を自動的に停止します。

リズム（伴奏）が鳴っているときに、シンクロ/エンディングボタンを押します。

→ リズムに応じたエンディングに切り替わり、リズム（伴奏）を終了します。

■ NOTE ■

- 各小節の2拍目より前にボタンを押すと同時にエンディングを開始し、2拍目以降に押すと次の小節からエンディングを開始します。

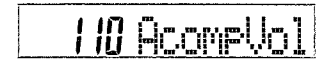
伴奏の音量を変えるには

伴奏パートの音量を通常の演奏とは独立して調節できます。伴奏の音量の範囲は、最小“000”～最大“127”です。

1. 伴奏の音量ボタンを押します。



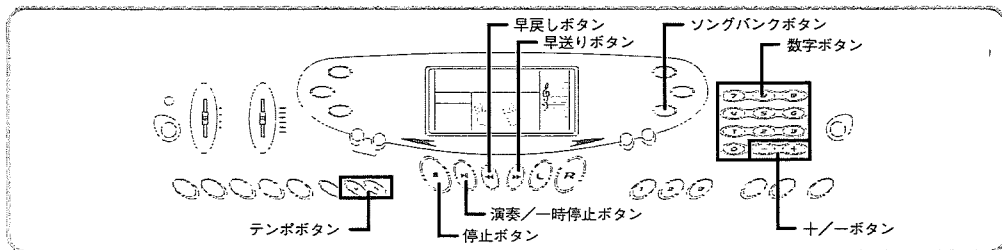
2. +/-ボタンまたは数字ボタンで伴奏の音量を指定します。
例：110



■ NOTE ■

- 操作1の後、表示は5秒で元に戻ります。
- 操作2で+/-ボタンを同時に押したときは、“075”になります。

ソングバンクの曲を鳴らしてみよう



本機には、それぞれLK-65: 120種類、LK-70BL: 125種類の自動演奏曲が内蔵されています(ソングバンク)。ソングバンクの中から好きな曲を選んで自動演奏を聞いたり、メロディーや伴奏を消してご自分で演奏する(3ステップレッスン)ことができます。曲の演奏中には、メロディーや伴奏を弾くための指使いや音の高さが液晶や鍵盤の光で表示されますので、ご自分で演奏するときのガイドとして利用できます。

※説明に使われている表示や曲名は、LK-65のものです。

曲を選ぶには

1. 本機のパネル上にあるソングバンクリストから曲を選び、その番号を確認します。
2. ソングバンクボタンを押します。
⇒ 現在選ばれている曲番号と曲名を表示します。
3. 数字ボタンで、曲の番号を3桁の数字で入力します。
例: “109 アロハ・オエ (ALOHA OE)” なら、“1→0→9” と入力します。
⇒ 自動演奏曲として“109 アロハ・オエ (ALOHA OE)” が選ばれます。



■NOTE■

- 曲番号は、+/-ボタンでも指定できます。

曲を鳴らすには

1. ソングバンクの曲を選びます。
2. 演奏/一時停止ボタンを押します。
⇒ 選ばれている曲の演奏を開始します。
 - 現在の小節数と拍数を表示します。
3. 停止ボタンを押すと、曲の演奏が止まります。
 - 演奏を止めるまで、同じ曲が繰り返し演奏されます。

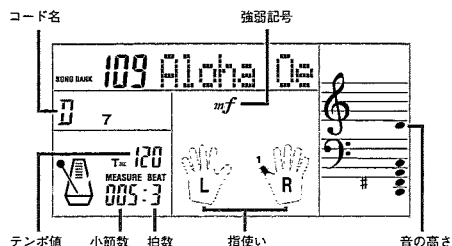


■NOTE■

- 曲の演奏中でも数字ボタン(+/-ボタン)で別の曲が選べます。この場合、曲の途中でも直ちに次の曲が演奏されます。

■ソングバンク演奏中の光ガイドと液晶表示について

ソングバンクの演奏中は、鍵盤が光ってそれぞれのパートの押さえるべき鍵盤が示されます(光ガイド)。同時に液晶表示では演奏するための指使いや、コード、音の高さ、テンポなどを知ることができます。



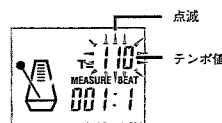
ソングバンクの曲を鳴らしてみよう

曲のテンポを調節するには

曲を選んだ直後には、その曲のおすすめのテンポが設定されています。曲の演奏中、テンポの値(1分間に演奏される4分音符の数)は40~255の範囲で自由に調節できます。

テンポボタンを押します。

- ▲...数値が増える(テンポが速くなる)
- ▼...数値が減る(テンポが遅くなる)
- テンポ: 1分間に演奏される4分音符の数です。



■NOTE■

- テンポ値の点滅中は、数字ボタン、+/-ボタンでも調節できます。
- ※“090”のように3桁で入力します。
- ▲/▼ボタンを同時に押すと、現在選ばれている曲のおすすめのテンポに戻ります。
- 以下の曲をおすすめのテンポで演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。テンポを調節すると、一定のテンポで演奏します。

- LK-65: 000, 001, 003, 005 ~ 007, 011, 018 ~ 020, 031 ~ 039, 041 ~ 051, 054 ~ 056, 060 ~ 062
- LK-70BL: 000, 001, 003, 006 ~ 012, 020 ~ 023, 031 ~ 044, 046 ~ 054, 057 ~ 059, 063 ~ 065

曲を一時停止するには

曲の演奏中に演奏/一時停止ボタンを押すと、演奏が一時的に停止します。もう一度ボタンを押すと、止めた位置から演奏を再開できます。

1. 曲の演奏中に演奏/一時停止ボタンを押します。
⇒ 曲の演奏が止まります。
2. もう一度演奏/一時停止ボタンを押すと、曲が止まった位置から演奏を再開します。

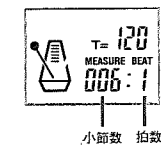
■NOTE■

- 停止ボタンで曲を止めた場合、演奏/一時停止ボタンを押すと曲の頭から演奏を開始します。

曲を早戻しするには

現在演奏している位置から前の方向へ1小節単位で移動します。

1. 曲の演奏中(または一時停止中)に早戻しボタンを押し続けます。
⇒ 1小節単位で早戻しを始めます。
 - 早戻し中の小節数と拍数を表示します。



2. 早戻しボタンを離すと、その位置から曲の演奏を始めます。

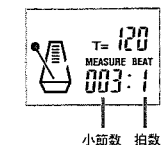
■NOTE■

- 停止ボタンで曲を止めた場合は、早戻しの操作が行えません。

曲を早送りするには

現在演奏している位置から後の方向へ1小節単位で移動します。

1. 曲の演奏中(または一時停止中)に早送りボタンを押し続けます。
⇒ 1小節単位で早送りを始めます。
 - 早送り中の小節数と拍数を表示します。

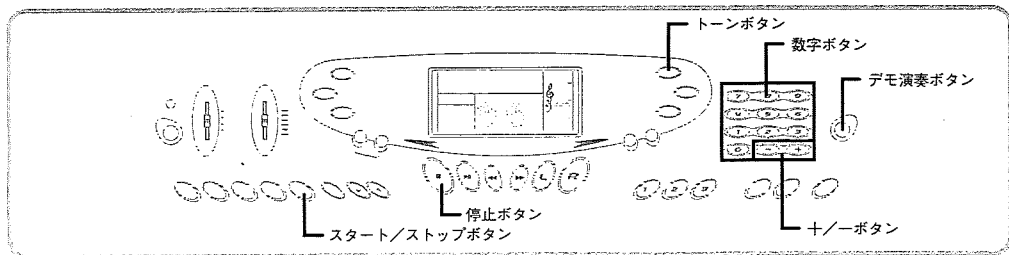


2. 早送りボタンを離すと、その位置から曲の演奏を始めます。

■NOTE■

- 停止ボタンで曲を止めた場合は、早送りの操作が行えません。

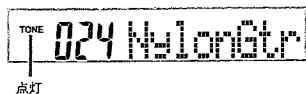
ソングバンクの曲を鳴らしてみよう



メロディーの音色を変えるには

本機には137種類の音色が内蔵されています。この中から曲のメロディーの音色を選ぶことができます。音色の変更は、ソングバンクの演奏中でも、一時停止中でも行えます。

1. ソングバンクの演奏中(または一時停止中)にトーンボタンを押します。



2. トーンリストから音色を選び、数字ボタンで音色番号を入力します。

例: "040 バイオリン (VIOLIN)" なら、0→4→0と入力します。



NOTE

- +/-ボタンでも音色を切り替えられます。
- 両手演奏の曲(次ページ参照)については、左右のパートとも同じ音色が割り当てられます。
- 同じ曲をもう一度選び直すと、あらかじめその曲に設定されている音色に戻ります。

全曲を通して聴くには

全種類のソングバンクの曲を、すべて通して聴くことができます。

1. デモ演奏ボタンを押します。
→ ソングバンクの000番の曲から、すべての曲を通して自動演奏します。
2. デモ演奏ボタン、停止ボタン、スタート/ストップボタンのいずれかで自動演奏を停止します。

NOTE

- 全曲を通して聴いているとき、数字ボタンまたは +/- ボタンを押すと好きな曲を選んで聴けます。
- 全曲を通して聴いているとき、演奏中の曲のメロディーで使用されている音色で鍵盤演奏が楽しめます。

★ 内蔵曲以外の曲を練習したい方は、付属の資料をご参照ください。

ソングバンクの曲を練習してみましょう (3ステップレッスン)

3ステップレッスンは、ソングバンクの曲を3つのステップに分けて練習していくための機能です。鍵盤1つでメロディーを演奏する簡単なステップ1から始まり、鍵盤の位置や指使いを覚えるステップ2を経て、最後のステップ3で普通の速さで曲が弾けるようになるまで、上達の進度に合わせてレッスンが行えます。

3ステップレッスンの内容は次のようになります。

ステップ1: 弾くタイミングを覚えよう

メロディーを弾くタイミングを覚えるレッスンです。ここでは光ガイドのタイミングに合わせて鍵盤のいずれか1つを続けて押すだけでメロディーが演奏でき、サブメロディー(オブリガード)は次の鍵盤を弾くまで待ってくれます。音の高さは気にせずメロディーを弾くタイミングだけ覚えましょう。

ステップ2: 弾く鍵盤、指使い、強弱を覚えよう

メロディーを正確に鍵盤で弾くレッスンです。どの指で弾くのか(指使い)、どのくらいの強さで弾くのか(強弱)を液晶表示で確認しながら、メロディーを光ガイドが示す通りに弾いてみましょう。サブメロディー(オブリガード)はメロディーを正確に弾けるまで待ってくれますので、最初は自分のペースでゆっくり弾いてみましょう。

ステップ3: 普通の速さで弾いてみましょう

ステップ2で練習した曲を普通の速さで弾くレッスンです。押さえるべき鍵盤が光ガイドで示されますが、伴奏は待たず一定のテンポで進行します。

■ 曲の種類と練習できるパート

ソングバンクの曲には、自動伴奏の曲と両手演奏の曲の2種類があります。選んだ曲の種類によって、3ステップレッスンで練習できるパートが異なります。

自動伴奏の曲

LK-65: 000~009, 012~017, 021~030, 052, 053, 057~059, 063~119

LK-70BL: 000~004, 008~019, 024~030, 055, 056, 060~062, 066~124

自動伴奏の曲は、自動伴奏パートとメロディーパートからなります。3ステップレッスンでは、メロディーパート(右手パート)のみを練習することができます。

両手演奏の曲

LK-65: 010, 011, 018~020, 031~051, 054~056, 060~062

LK-70BL: 005~007, 020~023, 031~054, 057~059, 063~065

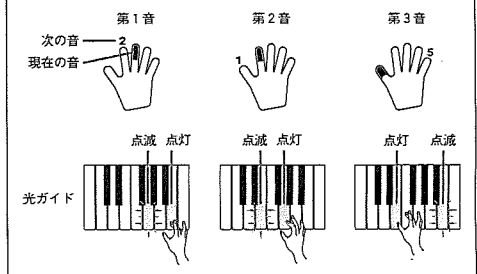
3ステップレッスンでは、右手・左手パートの両方を練習することができます。

■ 3ステップレッスンでの光ガイドと液晶表示について

3ステップレッスンで自動伴奏の曲を選んでるとき、鍵盤の光ガイド(鍵盤の点灯や点滅)と五線譜の液晶表示で、音の高さ、音の長さが表示されます。同時にその音符を弾くための指使いを液晶表示で確認できます。それぞれの見方は次の通りです。

- 音の高さ……現在点灯している鍵盤を押さえるべき鍵盤です。音の高さは五線譜の液晶表示でも確認できます。指使いの液晶表示は押さえる指の位置が点灯します。
- 音の長さ……鍵盤が点灯してから消灯するまでの時間が、その音の長さになります。五線譜や指使いの液晶表示も同じ間だけ点灯します。
- 次の音……点滅している鍵盤が、次に押さえる鍵盤です。指使いの液晶表示は次に押さえる指の番号が点灯します。
- 同じ音の高さが連続する場合……鍵盤が前の音の音符の長さだけ点灯した後、一瞬消灯して再び点灯します。五線譜や指使いの液晶表示も同様点灯します。

例: 3、2、1の指の順で弾いた場合



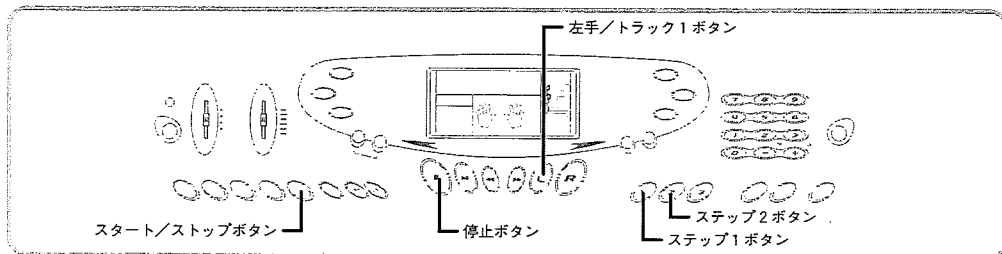
NOTE

- 両手演奏の曲のステップ1と2では、音の長さのガイドは行いません。点灯した鍵盤を押さえると同時に消灯し、次に押さえるべき鍵盤が点滅します。
- 両手演奏の曲のステップ3では音の長さも光ガイドで示されます。この場合、点灯している鍵盤を押さえる鍵盤で、次に押さえる鍵盤は点滅しません。
- ステップ3では次の音の指番号は表示しません。現在の音の指番号を表示します。

■ 3ステップレッスンのテンポ設定について

3ステップレッスンのテンポは、「テンポを調節するには」(16ページ)の方法で変更することができます。

ソングバンクの曲を練習してみましょう (3ステップレッスン)



ステップ1：弾くタイミングを覚えます

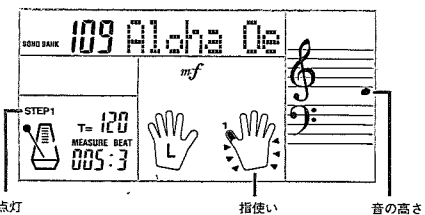
メロディー(右手パート)を弾くタイミングを覚えるレッスンです。ここでは光ガイドの点灯する鍵盤にタイミングを合わせて、鍵盤のいずれかが1つを続けて押すだけでメロディー(右手パート)が演奏できます。押しまちがいを気にせずに、メロディー(右手パート)を弾くタイミングだけ覚えましょう。

1. レッスンするソングバンクの曲を選びます。



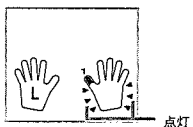
2. ステップ1ボタンを押して、ステップ1のレッスンを開始します。

→ カウントの後、(前奏のある曲は前奏に続き)1音目の待機状態になります。

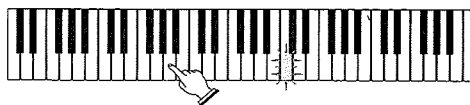


点灯 指使い 音の高さ

・レッスンをするパートの手の印の周りにはドットが点灯します。



3. 鍵盤のいずれかが1つを続けて押して、メロディー(右手パート)を演奏してみましょう。



- ・カウント中および前奏中は最初に押さえる鍵盤が点滅します(演奏中は次に押さえる鍵盤が点滅します)。弾くタイミングになると、鍵盤の光ガイドは点滅から点灯に変わります。
- ・伴奏(または左手パート)は、次の鍵盤を押さえるまで待ってくれます。
- ・誤って複数の鍵盤を続けて押すと、押した鍵盤の数だけメロディーが進行しますのでご注意ください。ただし、複数の鍵盤を同じタイミングで押した場合は、1つしかメロディーは進みません。

4. レッスを途中で止めるときは、停止ボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

NOTE

- ・両手演奏の曲(前ページ参照)に限り、左手パートのレッスンも同様に行えます。この場合、操作1で両手演奏曲を選んだあと、操作2の後で左手/トラック1ボタンを押してください。
- ・3ステップレッスンでは、メロディーと伴奏(右手パートと左手パート)の両方を同時にレッスンすることはできません。
- ・ステップ1では、早送り、早戻しの操作が行えません。
- ・ステップ1では一時停止の操作はできません。
- ・ステップ1ではリズム(打楽器)は鳴りません。

ソングバンクの曲を練習してみましょう (3ステップレッスン)

ステップ2：弾く鍵盤、指使い、強弱を覚えます

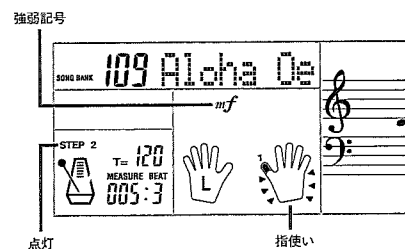
メロディー(右手パート)を正しく鍵盤で弾くレッスンです。指使い(運指)や弾く強さ(強弱)を液晶表示で確認しながら、メロディー(右手パート)を光ガイドで示す通りに弾いてみましょう。伴奏(左手パート)はメロディー(右手パート)を正確に弾くまで待ってくれますので、最初は自分のペースでゆっくり弾いてみましょう。

1. レッスンするソングバンクの曲を選びます。



2. ステップ2ボタンを押して、ステップ2のレッスンを開始します。

→ カウントの後、(前奏のある曲は前奏に続き)1音目の待機状態になります。



点灯 指使い

3. 鍵盤の光ガイドに合わせてメロディー(右手パート)を演奏してみましょう。



- ・カウント中および前奏中は最初に押さえる鍵盤が点滅します(演奏中は次に押さえる鍵盤が点滅します)。弾くタイミングになると、鍵盤の光ガイドは点滅から点灯に変わります。
- ・両手演奏曲で複数の鍵盤が光っているときは、それらの鍵盤をすべて押さえたときに曲が進行します。

4. レッスを途中で止めるときは、停止ボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

NOTE

- ・両手演奏の曲(23ページ参照)に限り左手パートのレッスンができます。この場合、操作1で両手演奏曲を選んだあと、操作2の後で左手/トラック1ボタンを押してください。
- ・3ステップレッスンでは、メロディーと伴奏(右手パートと左手パート)を両方同時にレッスンすることはできません。
- ・ステップ2では、早送り、早戻しの操作が行えません。
- ・ステップ2では一時停止の操作はできません。
- ・ステップ2ではリズム(打楽器)は鳴りません。

強弱記号について

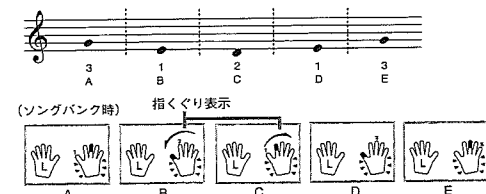
ソングバンク内の曲では、下記の強弱記号が表示されます。表示を参考にして鍵盤を押さえる強さをおぼえましょう。

- pp*(ピアノニッシモ)：とても弱く
- p*(ピアノ)：弱く
- mp*(メゾ・ピアノ)：少し弱く
- mf*(メゾ・フォルテ)：少し強く
- f*(フォルテ)：強く
- ff*(フォルテッシモ)：とても強く
- cresc.* < (クレッシェンド)：だんだん強く
- decresc.* > (デクレッシェンド)：だんだん弱く

指くぐり表示について

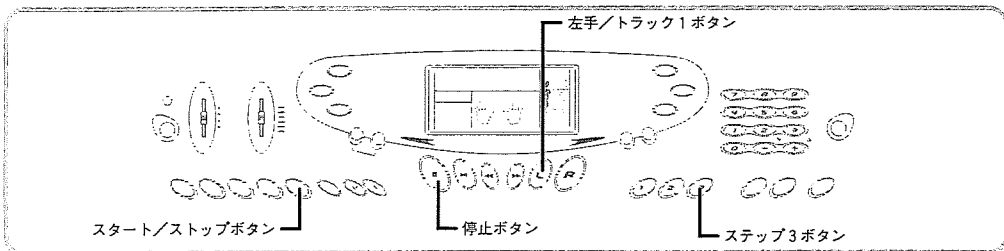
ソングバンク内の曲では、指使いと指くぐりの方向を表示します。表示を参考にして指の押さえ方をおぼえましょう。

例：下記のような譜面を右手のみで演奏した場合の表示



- ・B～Cの指使い：人さし指を親指の上にまたがせます。
- ・C～Dの指使い：親指を人さし指の下にくぐらせます。

ソングバンクの曲を練習してみましょう (3ステップレッスン)



ステップ3: 普通の速さで弾いてみましょう

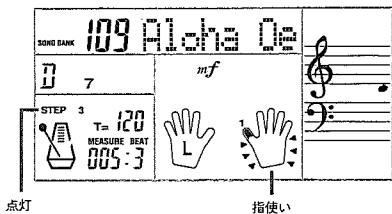
ステップ2で練習した曲を普通の速さで弾くレッスンです。押さえる鍵盤は光ガイドで示されますが、伴奏は待たずに一定のテンポで進行します。

1. レッスンするソングバンクの曲を選びます。

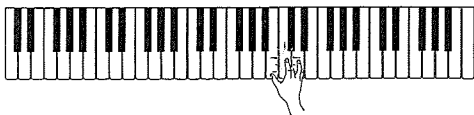


2. ステップ3ボタンを押して、ステップ3のレッスンを開始します。

⇒ 伴奏 (左手パート) が普通の速さで演奏されます。



3. 鍵盤の光ガイドに合わせてメロディー (右手パート) を演奏してみましょう。



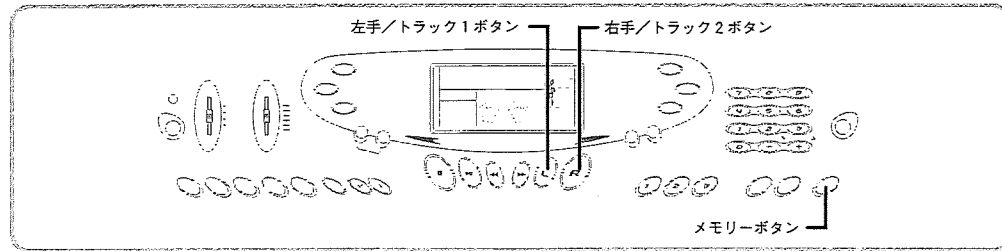
4. レッスンを途中で止めるときは、停止ボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

NOTE

- 両手演奏の曲 (23ページ参照) に限り左手パートのレッスンができます。この場合、操作1で両手演奏曲を選んだあと、操作2の後で左手/トラック1ボタンを押してください。
- 3ステップレッスンでは、メロディーと伴奏 (右手パートと左手パート) を両方向同時にレッスンすることはできません。
- ステップ3では、一時停止、早送り、早戻しの操作が行えます。

★ 内蔵曲以外の曲を練習したい方は、付属の資料をご参照ください。

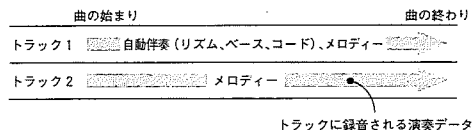
演奏を録音してみましょう



本機には、鍵盤の演奏を録音して2曲までオリジナル曲が作れるメモリー機能が装備されています。テープレコーダーの感覚で鍵盤演奏をそのまま録音したり、さらに音を重ねて録音したり、録音したあとにテンポを変更して再生することも可能です。録音の方法は、鍵盤演奏をそのまま録音する「リアルタイム録音」です。

トラックについて

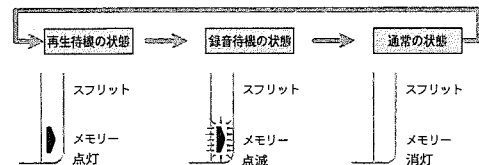
本機では1曲に対して異なる演奏内容を2つまで重ねて録音できます。2つの異なる演奏内容や音色番号は、メモリー内の個別の位置 (これをトラックと呼びます) にデータとして記録されます。



- 本機ではトラック1が基本トラックになっており、自動伴奏とメロディーの両方を録音できます。トラック2はメロディー専用トラックで、音を重ねて録音するときに利用します。
- それぞれのトラックは独立しているので、弾き間違えて録音しても、そのトラックだけ録音し直すことができます。

メモリーボタンの使い方

メモリーボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。

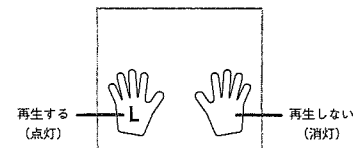


トラックの選択と液晶表示の見方

トラックを選ぶにはトラック1の場合は左手/トラック1ボタンを、トラック2の場合は右手/トラック2ボタンを押します。液晶表示で、トラック1とトラック2の状態を、それぞれLとRの文字の表示で知ることができます。

●再生待機の状態

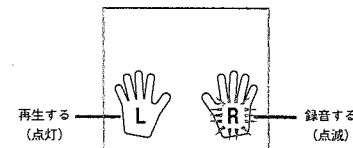
ボタンを押すごとに各トラックを再生するか、再生しないかが切り替わります。再生するトラックは対応する文字の表示が点灯し、再生しないトラックは消灯します。



★ この場合トラック1が再生する、トラック2が再生しない状態に設定されています。

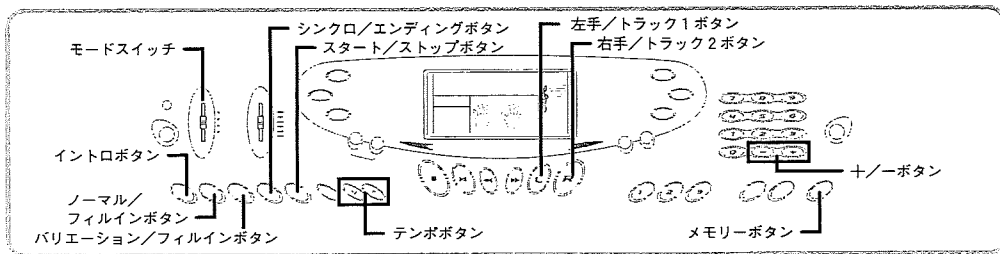
●録音待機の状態

ボタンを押した方のトラックが録音待機の状態になります。再生するトラックは、対応する文字の表示が点灯し、左手/トラック1ボタンまたは右手/トラック2ボタンを押すと録音を指定したトラックは点滅します。トラックを選択していない状態で、トラックにデータがある場合はそのトラックの表示が点灯します。



★ この場合トラック1が再生され、トラック2が録音されます。

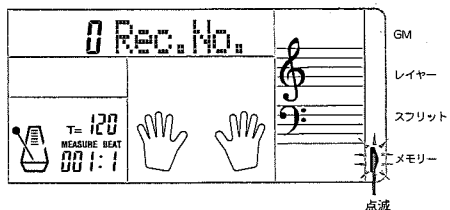
演奏を録音してみましょう



演奏をそのまま録音してみましょう

リアルタイム録音を使って、コード伴奏や鍵盤の演奏をそのまま録音してみましょう。

1. メモリーボタンを押して、録音待機の状態にします。



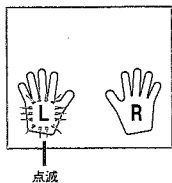
2. +/-ボタンで曲の番号0か1(ソングナンバー)を選びます。



- ★ この時点ではまだ録音するトラックは選ばれていません。
- ★ この表示のときに約5秒間何も操作せずにいると、録音待機状態のまま音色やリズムを選べる通常の表示に戻ります。

3. 左手/トラック1ボタンを押して、トラック1を選びます。

→ このとき録音するトラックは点滅します。



4. 必要に応じて次の設定を行います。

- 音色番号 (13ページ)
- リズム番号 (15ページ)
- モードスイッチ (16ページ)

★ 速いテンポで弾くのが苦手な方は、テンポボタンを使ってあらかじめテンポを下げてください (16ページ)。

5. スタート/ストップボタンを押します。

→ リアルタイム録音が始まります。

6. 鍵盤で演奏します。

- 伴奏鍵盤でコードを指定するとそのコードの自動伴奏がそのまま録音されます。またメロディー鍵盤を弾くと演奏がそのまま録音されます。
- 演奏中にペダルを利用している場合、ペダルの操作もそのまま録音されます。

7. 演奏が終わったら、スタート/ストップボタンで録音を終了します。

★ 録音中に弾きまちがえたときは、操作1からやり直します。

■ NOTE ■

- リアルタイム録音で、すでに録音したトラックに再度録音する場合、以前録音されたデータが消えて新しいデータが上書きされます。

■リアルタイム録音でトラック1に記録される内容

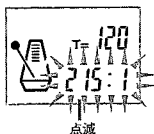
鍵盤演奏やコード伴奏以外にも、以下の内容がトラックに記録され、録音時のまま再生されます。

- 音色番号
- リズム番号
- イントロボタン、シンクロ/エンディングボタン、ノーマル/フィルインボタン、バリエーション/フィルインボタンの操作
- ペダル操作

■録音できる長さ(メモリー容量)

メモリー機能で録音できる音符は、2曲合わせて約5200音符です。1曲で5200音符を使いきってしまうと、2曲目は録音できません。

- 録音中に録音できる音符が約100音符以下になると、小節数と拍数の液晶表示が点滅します。



- 録音中にメモリーの容量がいっぱいになると、録音が自動的に終了します(自動伴奏やリズムを鳴らしているときは、その音も止まります)。

演奏を録音してみましょう

録音した演奏を聴いてみましょう

トラックに録音した演奏内容を再生してみましょう。

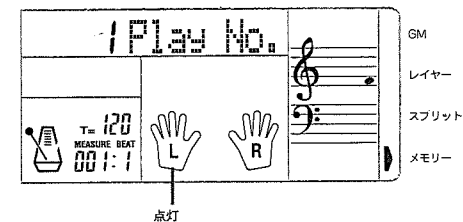
1. メモリーボタンを押して再生待機の状態にし、+/-ボタンでソングナンバー(0か1)を選びます。



★ ソングナンバー表示は、約5秒後消えます(再生待機の状態はそのままで)。もう一度表示させるには、ソングナンバーが表示されるまでメモリーボタンを続けて押して再生待機の状態にしてください。

2. スタート/ストップボタンを押します。

→ 録音された演奏内容を再生します。メモリー再生時に左手/トラック1ボタンや右手/トラック2ボタンを押すことで、録音された伴奏やメロディーをそれぞれ消して聴くこともできます。



● テンポボタンでテンポを調節できます。

3. スタート/ストップボタンで再生を停止します。

■ NOTE ■

- メモリーの再生中にはモードスイッチの設定にかかわらず、鍵盤がすべてメロディー鍵盤となり、録音した演奏に合わせて弾くことができます。このときスプリットやレイヤー機能(32~33ページ参照)を使えば、異なる音色を鍵盤の左右で分けて弾いたり、異なる音を重ねて演奏することもできます。
- メモリーの再生では一時停止、早送り、早戻しの操作はできません。

■録音内容の保持について

- 新しく録音した時点で、以前の録音内容は消えてしまいます。
- 電池やACアダプターで電源を供給している間は、電源をオフにしても録音内容が保持されます。電池で利用しているときに電池を抜いたり、電池が消耗すると録音内容が消去されます。電池の交換は、ACアダプターを接続した状態で行うことをおすすめします。
- 録音中に電源が切れると、録音中のトラックの内容はすべて消去されます。

■トラック1にリアルタイム録音する場合の応用例

● リズムなしで録音するには

操作5を省略します。

- 鍵盤を押すと同時に、リズムなしで演奏内容が録音されます。

● シンクロスタートで録音を始めるには

操作5の代わりにシンクロ/エンディングボタンを押します。

- 伴奏鍵盤でコードを指定すると、自動伴奏と録音が同時にスタートします。

● 前奏やエンディング、フィルインを入れて録音するには

録音中はイントロボタン、シンクロ/エンディングボタン、ノーマル/フィルインボタン、バリエーション/フィルインボタンが使用できます。

● シンクロスタートで前奏から録音を始めるには

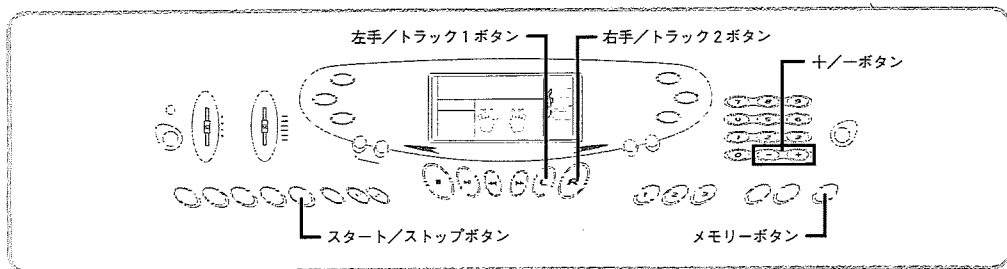
操作5の代わりに、シンクロ/エンディングボタンとイントロボタンを続けて押します。

- 伴奏鍵盤でコードを指定すると、コード伴奏付きの前奏と同時に録音がスタートします。

● 録音途中から自動伴奏をスタートさせるには

操作5の代わりにシンクロ/エンディングボタンを押し、メロディー鍵盤で演奏を始めます。

- 伴奏なしでメロディーの録音を開始します。録音の途中で伴奏鍵盤でコードを指定すると、自動伴奏がスタートします。



メロディーの演奏を重ね録音してみましょう

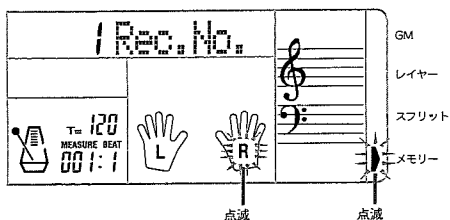
トラック1に録音した演奏に合わせ、トラック2にメロディーを重ねて録音してみましょう。

1. メモリーボタンを押して録音待機の状態にし、+/-ボタンでソングナンバー（0か1）を選びます。



★ この時点では、まだ録音するトラックは選ばれていません。

2. 右手/トラック2ボタンを押して、トラック2を選びます。



3. 必要に応じて次の設定を行います。
 - 音色番号
 - ★ 速いテンポで弾くのが苦手な方は、テンポボタンを使ってあらかじめテンポを下げてください。
4. スタート/ストップボタンを押します。
 - トラック2のリアルタイム録音を開始します。
 - トラック1は再生を始めます。
5. トラック1を聴きながら、メロディーを演奏します。
6. 録音が終わったら、スタート/ストップボタンを押して録音を終了します。
 - ★ 録音中に弾きまちがえたときは、操作1からやり直します。

■ NOTE ■

- トラック2はメロディー専用のトラックのため、コード伴奏は録音できません。このためトラック2に録音するときは、モードスイッチの設定にかかわらず、鍵盤はすべてメロディー鍵盤になります。
- 録音済みのトラックのメロディーを再生させないで録音したい場合は、あらかじめ、再生待機の状態録音済みのトラックを再生しない状態に設定してから録音待機の状態にして録音を開始してください。ただし、リズムや自動伴奏は消すことはできません。

■リアルタイム録音でトラック2に録音される内容

鍵盤の演奏以外にも以下の内容が録音されます。

- 音色番号
- ペダルの操作

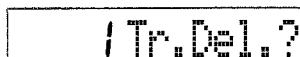
特定のトラックを消去するには

録音済みのトラックを曲の最初から最後まで消去します。

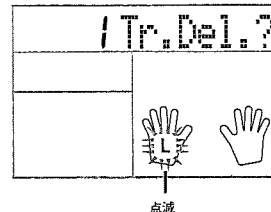
1. メモリーボタンを押して録音の待機状態にし、+/-ボタンで消去したいトラックのあるソングナンバー（0か1）を選びます。



2. メモリーボタンを押し続けます。
 - トラックを消去する状態に表示が切り替わります。



3. 左手/トラック1または右手/トラック2ボタンを押して、消去したいトラックを選びます。
 - 例：トラック消去でトラック1を選んだ状態

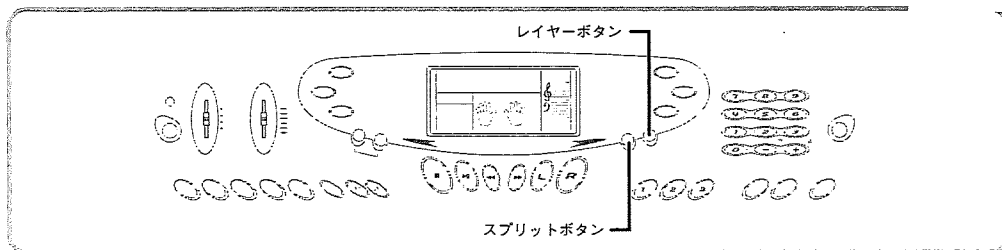


4. +/-ボタンを押します。
 - 選ばれたトラックが消去され、メモリー再生の待機状態になります。

■ NOTE ■

- 操作3の状態約5秒間何も操作しないと、通常の状態にもどります。
- 操作3の状態でソングナンバーを変更することはできません。
- 録音されていないトラックは選択できません。
- トラックを消去する状態でメモリーボタンを押すと、録音待機の状態に戻ります。

設定を変えてみましょう



本機では、鍵盤の設定を変更することで2種類の音色を重ねて鍵盤で演奏したり、鍵盤の高音部と低音部に異なる音色を割り当てて演奏するなど、幅広い演奏方法を楽しむことができます。

レイヤー機能を利用するには

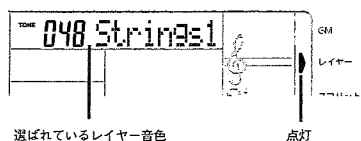
レイヤー機能とは、2種類の音色を重ねて演奏するための機能です。この機能を利用すれば内蔵音色の中から2つの音色(メイン音色とレイヤー音色)を選んで同時に発音させることで、まったく新しいサウンドを作ることができます。例えばブラスの音色にフレンチホルンの音色を重ねれば、厚みのあるブラスサウンドで鍵盤演奏が楽しめます。

1. メイン音色を指定します。

例：“061 ブラス (BRASS)”の音色を指定する場合は、トーンボタンを押し、数字ボタンで“0→6→1”と入力します。



2. レイヤーボタンを押します。

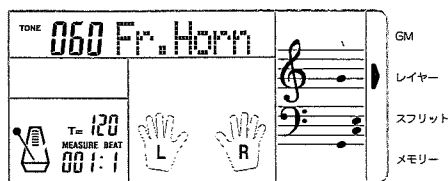


3. レイヤー音色を指定します。

例：“060 フレンチホルン (FRENCH HORN)”の音色を重ねる場合は、数字ボタンで“0→6→0”と入力します。



4. 鍵盤を弾いてみましょう。



→ ブラスとフレンチホルンが同時に鳴ります。

5. レイヤーボタンを押すと通常の状態に戻ります。

[レイヤー]

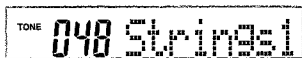


スプリット機能を利用するには

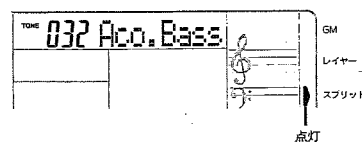
スプリット機能とは、2つの音色を鍵盤の高音部と低音部に分ける機能です。両手で鍵盤を演奏するとき、この機能で鍵盤の高音部と低音部に異なる音色を割り当てれば、2種類の楽器を左右に分けて演奏できます。例えば低音部にピチカート、高音部にストリングスを割り当てることで、ストリングスアンサンブルを弾き分けることができます。

1. メイン音色 (高音部の音色) を指定します。

例：“048 ストリングス1 (STRINGS1)”の音色を指定する場合は、トーンボタンを押し、数字ボタンで“0→4→8”と入力します。



2. スプリットボタンを押します。



3. スプリット音色 (低音部) を指定します。

例：“045 ピチカート (PIZZICATO STRY)”の音色で鍵盤を分けたい場合は、数字ボタンで“0→4→5”と入力します。



4. 低音部と高音部の境目 (スプリットポイント) を指定します。

例：G3の鍵盤で分ける場合は、スプリットボタンを押しながらG3の鍵を弾きます。



5. 鍵盤を弾いてみましょう。

→ F#3より下の鍵盤でピチカートの音色が鳴り、G3から上の鍵盤でストリングスの音色が鳴ります。

6. もう一度スプリットボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

[スプリット]



レイヤーとスプリットを同時に使うには

レイヤーの状態からスプリットボタンを押すか、スプリットの状態からレイヤーボタンを押すと、それぞれの特徴を兼ね備えた「レイヤースプリット」という状態で利用できます。これは、2種類のレイヤーサウンドが鍵盤の高音部(メイン音色+レイヤー音色)と低音部(スプリット音色+レイヤースプリット音色)で発音します。

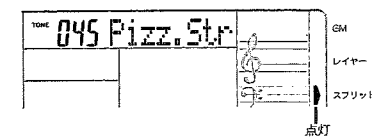
1. メイン音色を指定します。

例：メイン音色が“061 ブラス (BRASS)”の場合



設定を変えてみましょう

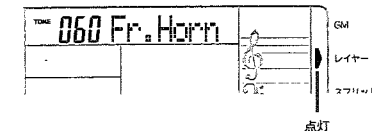
2. スプリット機能を使ってスプリット音色を指定します。



指定後は、スプリットを解除しておきます。

3. レイヤー機能を使ってレイヤー音色を指定します。

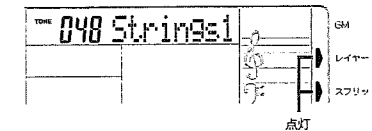
例：レイヤー音色が“060 フレンチホルン (FRENCH HORN)”，スプリット音色が“045 ピチカート (PIZZICATO STRY)”の場合



4. スプリットの状態からレイヤーボタン、またはレイヤーの状態からスプリットボタンを押して、レイヤースプリットの状態にします。

5. レイヤースプリット音色を指定します。

例：“048 ストリングス1 (STRINGS1)”の音色を指定する場合は、数字ボタンで“0→4→8”と入力します。



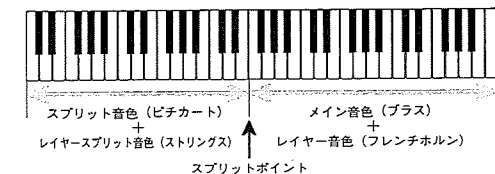
6. スプリットポイントを指定します。

例：F4の鍵盤で分ける場合は、スプリットボタンを押しながらF4の鍵を押します。

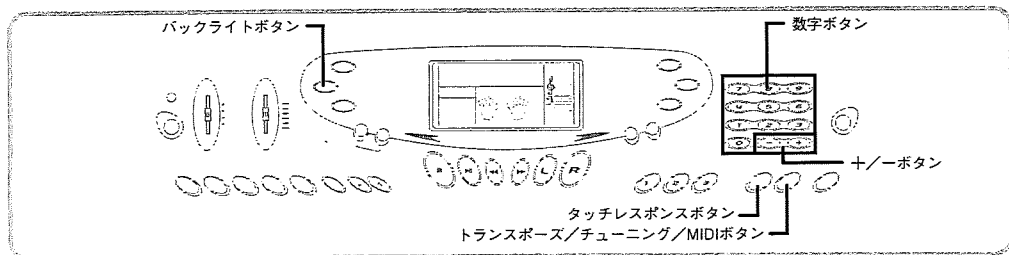
7. 鍵盤を弾いてみましょう。

→ レイヤーボタンとスプリットボタンを押すと通常の状態に戻ります。

[レイヤースプリット]



設定を変えてみましょう

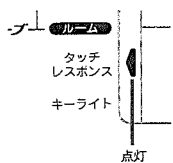


タッチレスポンス機能を利用するには

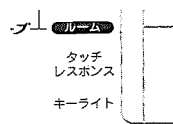
タッチレスポンス機能とは、鍵盤を弾く強弱で音量を変化させるかどうかを決める機能です。タッチレスポンス機能をオンにすると、実際のピアノのように鍵盤を弾く強さで音量が変化します。

タッチレスポンスボタンを押して機能のオン/オフを切り替えます。

- タッチレスポンスのドットが点灯しているとき（タッチレスポンス・オン）は、鍵盤を弾く強弱が変化します。



- タッチレスポンスのドットが消灯しているとき（タッチレスポンス・オフ）は、鍵盤を弾く強弱にかかわらず、音の大きさが一定となります。



NOTE

- タッチレスポンスがオンのときのタッチの強弱への感度設定を変更することができます。詳しくは「タッチカーブセレクトの設定」(40ページ)をご参照ください。
- タッチレスポンス機能の動作は、本機の内蔵音源だけでなくMIDIアウトの情報にも反映します。
- メモリー再生や、伴奏、外部からのMIDIノート情報は、タッチレスポンス機能の設定に影響されません。

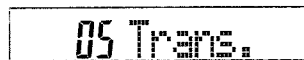
トランスポーズ機能を利用するには

トランスポーズ機能とは、本機全体の音の高さを半音単位で上下させる機能です。例えば、歌の伴奏をするとき、その楽譜が歌う人の声の高さに合わないことがあります。このようなとき、鍵盤演奏はそのまま、簡単に音の高さを変えることができます。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを1回押してトランスポーズの設定画面にします。



2. +/-ボタンまたは数字ボタンでトランスポーズの量を設定します。
例：5半音上にトランスポーズさせる場合。



NOTE

- トランスポーズの設定範囲は-12(1オクターブ下)～+12(1オクターブ上)です。
- 電源を入れたときは、「00」になります。
- ボタンを押してから5秒間に何もボタンを押さないと、通常の状態に戻ります。
- トランスポーズの設定は、メモリー機能や自動伴奏の演奏にも反映されます。

トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンについて

通常の状態からトランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押すことで、トランスポーズやチューニングを設定する画面に切り替えられます。画面の中にはMIDIを使うためのさまざまな機能の画面(37ページ)も含まれており、トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押すたびにそれぞれの画面が順番に切り替わり、最後に通常の状態に戻ります(通常の状態から12回ボタンを押すと、通常の状態に戻ります)。呼び出した画面を行き過ぎた場合は、再度その画面が表示されるまでトランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してください。

設定を変えてみましょう

チューニング機能を使うには

チューニング機能とは、本機全体の音の高さを微調節する機能です。この機能を利用すると、チューニングが異なる他の楽器とアンサンブルする場合でも、相手の楽器にチューニングを合わせるすることができます。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを2回押してチューニングの設定画面にします。



2. +/-ボタンまたは数字ボタンでチューニングの量を調節します。

例：チューニングを20下げる場合。



NOTE

- チューニングの設定範囲は-50～+50で、土約50セント*です。
*100セント=半音
- 電源を入れたときは、「00」になります。
- ボタンを押してから5秒間に何もボタンを押さないと、通常の状態に戻ります。
- チューニングの設定は、メモリー機能や自動伴奏の演奏にも反映します。

バックライトの色の設定を変更するには

本機の表示用バックライトの色は、5種類あり、音色表示やリズム表示など、画面の種類ごとに色が変わります。これをお好みの色に変更することができます*。

- * リズム表示画面(赤固定)、ソング表示画面(黄固定)を除く

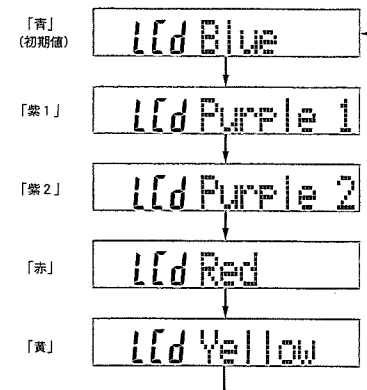
また、バックライトの色選択をオフにすれば、画面の色が機能ごとに変わらないように設定することもできます。

NOTE

- デモ再生時には、バックライトは自動で順番に5色に変わるように固定されています。

バックライトの色を変更するには

バックライトボタンを押すごとに、以下の順序で色を変更することができます。



NOTE

- 以下の場合、画面の色を変更できません。
「デモ再生中、ソング再生中、ソングレッスン中、伴奏再生中、メモリーモード中」

バックライトの色選択のオン/オフ

バックライトの色選択のオン/オフを切り替えます。オフに設定すると、画面の色が機能ごとに変わらないようになります(デモ再生中画面は除く)。色は、音色表示画面で設定されている色になります。

1. バックライトボタンを2秒押し続けます。
• ON/OFF 設定画面が表示されます。



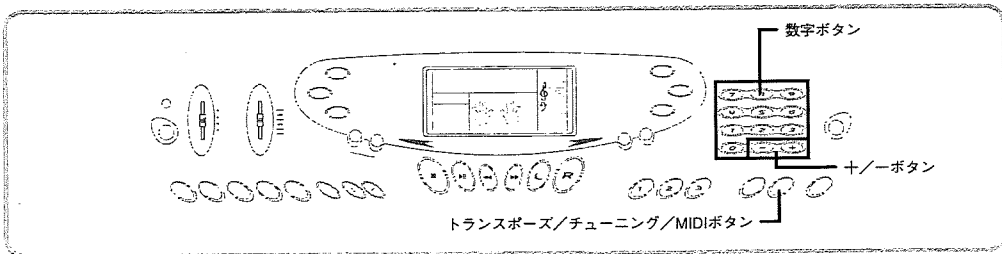
2. +/-ボタンを使って、オン/オフを切り替えます。

NOTE

- 初期設定値は、オンです。
- ボタンを押してから5秒間以内に何もボタンを押さないと、通常の状態に戻ります。
- 以下の場合、設定を変更できません。
「デモ再生中、ソング再生中、ソングレッスン中、伴奏再生中、メモリーモード中」
- バックライトの色選択がオフの時は、リズムとソング表示画面も音色表示画面と同じ色になります。また、電源オン時の画面の色替え動作も実行されません。

MIDIを使ってみましょう

MIDIを使ってみましょう



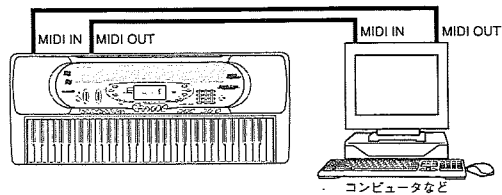
MIDIについて

MIDI (ミディ) は、Musical Instrument Digital Interface の略で、電子楽器どうし、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。たとえメーカーや機種が違って、MIDI対応の機器であれば「鍵盤を弾いた/離れた」「音色を切り替えた」といった情報（これらをメッセージと呼びます）を相手に伝えることができます。本機を単体で使用する場合は、特にMIDIの知識がなくても十分楽しめますが、コンピューターなどの外部機器と組み合わせる場合は、MIDIについて最小限知っておくと便利です。ここではMIDIの仕組みやメッセージの種類について簡単に説明しておきましょう。

MIDIの接続について

MIDIのメッセージは、ある機器のMIDIアウト端子から他の機器のMIDIイン端子へと、MIDIケーブルを通じて一方通行で送られます。例えば本機から外部機器へとメッセージを送るには、本機のMIDIアウト端子と外部機器のMIDIイン端子をMIDIケーブルで接続します。逆に外部機器から本機へメッセージを送るには、本機のMIDIイン端子と外部機器のMIDIアウト端子を接続します。

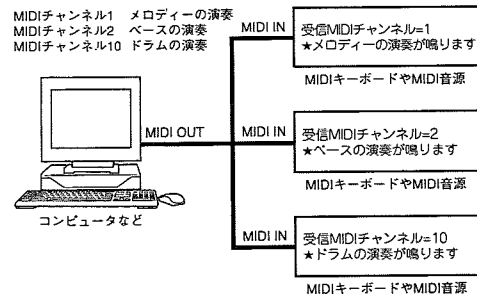
コンピューターなどの外部機器に本機の演奏内容を録音/再生する場合は、お互いのMIDIイン/アウトどうしを接続して、双方向でMIDIメッセージのやり取りができるようにします。



★ このとき、コンピューターやシーケンサー（自動演奏装置）でMIDIスルー機能（MIDIインで受信した情報をそのままMIDIアウトに出力する機能）を利用する場合は、本機のローカルコントロールをオフにしてください（39ページ参照）。

MIDIチャンネルについて

MIDIを使って情報をやり取りするとき、同時に複数のパートの演奏情報を送ることができます。それぞれのパートを区別するのが「MIDIチャンネル」と呼ばれる情報です。MIDIチャンネルには1～16までの16チャンネルがあり、MIDIでやり取りする演奏情報（鍵盤を弾く、ペダルを踏むなどの情報）には、必ずこのMIDIチャンネルの情報が含まれています。例えばご家庭のテレビでは、チャンネルを選ぶことで、1本のアンテナが受信した複数の電波の中から、特定の電波のみ画面に映し出します。同じようにMIDIチャンネルの場合も、受け側でMIDIチャンネルを設定することで、送り側のMIDIチャンネルと一致した演奏情報のみ受け側が発音します。例えば受け側がMIDIチャンネル2に設定されている場合、MIDIチャンネル2の演奏情報のみを受信して他のMIDIチャンネルの演奏情報は無視します。



本機では16のMIDIチャンネルすべてのメッセージを受信できるので、チャンネルごとの音色や音量を個別に設定したり、最高16楽器パートを演奏することもできます（これをマルチティンバー機能と呼びます）。逆に本機の鍵盤やペダルの操作を外部に送信する場合は、MIDIチャンネル1～16の中からチャンネルを1つ選んで送信します。

GMについて

MIDIを使えばメーカーや機種が異なる機器どうしでも演奏情報や音色番号などをやり取りできることは、すでに説明しました。ところが、MIDIで送られる演奏情報とは音そのものではなく、鍵盤を押し/離れた、何番の音色を選んだという情報に過ぎません。

例えばA社のキーボードでは1番の音色がピアノなのに、B社のキーボードでは1番の音色がベースだった場合、せっかく演奏情報を送っても全く別の演奏になってしまいます。また、コンピューターやシーケンサーなど自動演奏機能を持つ機器を使ってA社のキーボード用に16パート（16チャンネル）の自動演奏データを作っても、B社のキーボードが10パート（10チャンネル）までしか受信できなければ、演奏できないパートが出てきてしまいます。

そこで、音色の並び順やパート数など演奏に必要な最小限の仕組みについてはある程度共通化できるように、各メーカーの話し合いで決められた推奨規格がGM（General MIDI）と呼ばれるものです。

GMの規格では、音色の並び順、ドラム音色の並び順、使用可能なMIDIチャンネル数など、音源部分の仕組みについて決められています。このため、GM音源用に作られた演奏データであれば、どのメーカーのどの音源でも、比較的同系統の音色、同じニュアンスで再生することができます。

本機の音源部分はGM規格に対応していますので、市販のGM対応データやパソコン通信などで流通しているGM対応データを、コンピューターなどの外部機器と接続することで再生することができます。

MIDIの設定を変えるには

本機は、単体で楽しむだけでなく、外部のシーケンサーやシンセサイザーなどと組み合わせて、市販のGM対応データを再生したり同時に演奏することができます。ここでは、外部機器と併用する場合に必要なMIDIの設定方法について説明します。

トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンの使い方

通常の状態からトランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押すたびに、MIDIを使うためのさまざまな機能の画面を呼び出します。このボタンを押すたびに画面が循環して切り替わり、最終的には通常の状態に戻ります（通常の状態から12回ボタンを押すと、もう一度通常の状態に戻ります）。呼び出したい画面を行き過ぎた場合は、再度その画面が表示されるまでトランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してください。なお、このボタンによる操作は画面呼び出し後、約5秒放置すると、自動的に元の画面に戻ります。各操作は5秒以内に行なってください。

GMシステム オン/オフの設定（初期値：オフ）

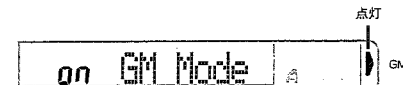
本機をGM対応音源として利用したい場合に使用します。

- GMシステムがオン（on）の場合：
本機を使ってコンピューターなどの外部機器からGM対応データを演奏できます。このときMIDIインコードジャッジ機能は利用できません。
- GMシステムがオフ（off）の場合：
MIDIインコードジャッジが利用できるようになります。

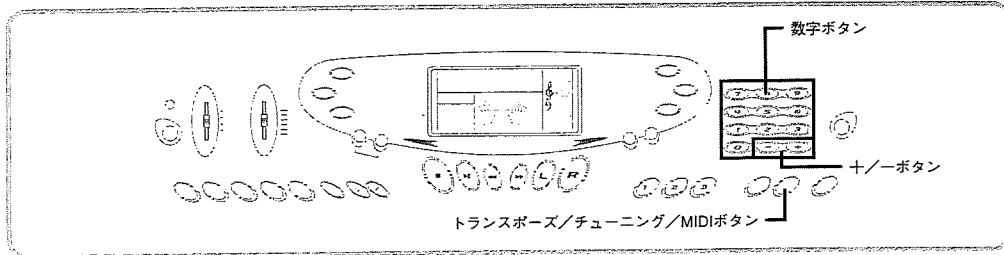
1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してGMシステム オン/オフの設定画面にします（通常の状態から3回ボタンを押します）。
例：GMシステムはオフの状態です。



2. +/-ボタンまたは数字ボタンで設定値を変更します。
例：GMシステムをオンにします。



MIDIを使ってみましょう



■**キーボードチャンネルの設定(初期値:1)**
キーボードチャンネルとはキーボードのMIDIメッセージを外部の機器へ送信するチャンネルのことです。キーボードチャンネルは1～16のMIDIチャンネルの中から1つ指定します。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してキーボードチャンネルの設定画面にします(通常の状態から4回ボタンを押します)。

01 Keybd Ch

2. +/-ボタンまたは数字ボタンで設定値を変更します。
例: MIDIチャンネル4をキーボードチャンネルに設定します。

04 Keybd Ch

■**ナビゲートチャンネルの設定(初期値:4)**

ナビゲートチャンネルとは、MIDIメッセージを受信し本機で演奏したときに、音符情報を本機の鍵盤の光ガイドや液晶で表示させるMIDIチャンネルのことです。ナビゲートチャンネルは1～8のMIDIチャンネルの中から選びます。市販のMIDIデータの好きなパートを光ガイドで表示させて、弾き方を研究するのに便利です。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してナビゲートチャンネルの設定画面にします(通常の状態から5回ボタンを押します)。

4 Navi. Ch

2. +/-ボタンまたは数字ボタンで設定値を変更します。
例: MIDIチャンネル2をナビゲートチャンネルに設定します。

2 Navi. Ch

■NOTE■

- MIDIインコードジャッジをオンにすると、ナビゲートチャンネルは自動的に1Chになります。

●受信中のMIDIデータ再生中に任意の音をオフにするには(ナビゲートチャンネルで設定されているチャンネルのオン/オフ)

MIDIデータ再生中に**右手/トラック2**ボタンを押します。
→ ナビゲートチャンネルで設定されているチャンネルの音は消えますが、鍵盤の光は送られてくるデータ通りに点灯します。オンにするには再度押します。

(ナビゲートチャンネルで設定されているチャンネルの1チャンネルのオン/オフ)

MIDIデータ再生中に**左手/トラック1**ボタンを押します。
→ ナビゲートチャンネルで設定されているチャンネルの1チャンネルの音が消えます。鍵盤の光は1チャンネルのデータが光ります。オンに戻すには再度押します。
例: ナビゲートチャンネル:4Chの場合→3Chの音が消えます。
ナビゲートチャンネル:1Chまたは2Chの場合→8Chの音が消えます。

■**MIDIインコードジャッジオン/オフの設定(初期値:オフ)**

MIDIイン端子を通じて外部から送られる音符情報を使って、本機のコードを指定したい場合に使用します。コンピューターなどの外部機器から、自動伴奏のコード進行をコントロールしたいときに便利です。

- MIDIインコードジャッジがオン(on)の場合:
モードスイッチでコードの指定方法が選ばれているとき、MIDI IN端子から入力されたキーボードチャンネルのノート情報でコードが指定できます。

MIDIを使ってみましょう

- MIDIインコードジャッジがオフ(off)の場合:
MIDIインコードジャッジ機能が解除されます。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してMIDIインコードジャッジ オン/オフの設定画面にします(通常の状態から6回ボタンを押します)。
例: MIDIインコードジャッジはオフの状態です。

off Local

2. +/-ボタンまたは数字ボタンで設定値を変更します。
例: MIDIインコードジャッジをオンにします。

on Chord

■NOTE■

- ナビゲートチャンネルを1Ch以外に変えると、MIDIインコードジャッジは自動的にオフになります。

■**ローカルコントロールオン/オフの設定(初期値:オン)**

本機の鍵盤部分と音源部分を内部的に接続するかどうかを設定します。コンピューターなどの外部機器と本機のMIDIイン/アウト端子どうしを接続して演奏内容を外部機器に録音するときに、ローカルコントロールをオフにして本機の鍵盤部分と音源部分を切り離れた方が便利ことがあります。

- ローカルコントロールがオン(on)の場合:
鍵盤の演奏情報は本体の音源で発音し、同時にMIDI OUT端子からMIDIメッセージとして送られます。

- ローカルコントロールがオフ(off)の場合:
鍵盤による演奏情報は、MIDI OUT端子からMIDIメッセージとして送られますが、本体の音源は発音しません。コンピューターなどの外部機器側のMIDIスルー機能を利用するときはオフにして使用してください。

■NOTE■

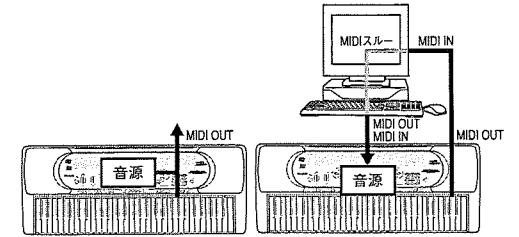
- 本機を単体でご使用になるときにローカルコントロールをオフにすると、鍵盤を弾いても音が出なくなりますのでご注意ください。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してローカルコントロール オン/オフの設定画面にします(通常の状態から7回ボタンを押します)。
例: ローカルコントロールはオンの状態です。

on Local

2. +/-ボタンまたは数字ボタンで設定値を変更します。
例: ローカルコントロールをオフにします。

off Local



★ローカルオンの状態
鍵盤の演奏は本体内の音源で鳴らし、同時にMIDI OUT端子からもMIDIメッセージを送ります。

★ローカルオフの状態
鍵盤の演奏はMIDI OUT端子からMIDIメッセージとして送られますが、本体内の音源は直接鳴らしません。MIDIメッセージを受信したコンピューター側のMIDIスルーを利用することで、本体内の音源にMIDIメッセージが送り返され音が鳴ります。

■**ア कंप MIDIアウト オン/オフの設定(初期値:オフ)**

自動伴奏の内容を外部の音源で鳴らしたいときにこの機能をオンにします。

- ア कंप MIDIアウトがオン(on)の場合:
自動伴奏を鳴らしたとき、そのMIDIメッセージをMIDI OUT端子から送信します。

- ア कंप MIDIアウトがオフ(off)の場合:
自動伴奏を鳴らしたとき、そのMIDIメッセージはMIDI OUT端子から送信されません。

1. トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンを押してア कंप MIDIアウト オン/オフの設定画面にします(通常の状態から8回ボタンを押します)。
例: ア कंप MIDIアウトはオフの状態です。

off AcompOut

2. +/-ボタンまたは数字ボタンで設定値を変更します。
例: ア कंप MIDIアウトをオンにします。

on AcompOut

MIDI を使ってみましょう

〈コントロールチェンジ〉

演奏中の音にビブラートやボリューム変化などの効果を加えるためのメッセージです。それぞれのコントロールチェンジには、

- コントロールナンバー…効果の種類を区別する番号
- コントロール値…効果の深さ、オン/オフの設定

という情報が含まれています。本機は次のコントロールチェンジを送受信可能です。

本機が送受信可能なコントロールチェンジ/コントロールナンバー

| コントロールチェンジ | コントロールナンバー |
|------------|------------|
| ★モジュレーション | 1 |
| ★ボリューム | 7 |
| ★パン | 10 |
| ★エクスプレッション | 11 |
| ホールド1 | 64 |
| ソステヌート | 66 |
| ソフトペダル | 67 |
| RPN* | 100 / 101 |
| データエントリー | 6 / 38 |

★印のメッセージは受信のみです。

※ RPN (Registered Parameter Number) は、複数のコントロールチェンジを組み合わせて使用する特殊なコントロールチェンジです。コントロールナンバー100と101のコントロール値でコントロールする要素を選び、データエントリー (コントロールナンバー6 / 38) のコントロール値で値を設定します。

本機では、外部MIDI機器から本機のピッチバンドセンス (ピッチバンドデータによる音高の変化幅)、トランスポーズ (本機全体の音の高さを半音単位で調節する機能)、チューン (本機全体の音の高さを微調整する機能) をコントロールするのにRPNを使用します。

■ NOTE ■

- フットペダルによるサスティン/ソステヌート/ソフトの効果も送受信されます (コントロールナンバー64、66、67)。

〈オールサウンドオフ〉

そのチャンネルで現在鳴っている音を、すべて強制的に消音するメッセージです。

〈オールノートオフ〉

そのチャンネルでノートオン情報で持続させている音を、すべて消音するメッセージです。

- ※ サスティンペダルやソステヌートペダルを使って持続させている音は、ペダルをオフにするまで発音を続けます。

〈リセットオールコントローラー〉

ピッチバンドや各種のコントロールチェンジを初期状態に戻すメッセージです。

〈システムエクスクルーシブ〉 (*)

システムエクスクルーシブとは、音色の細かい設定などその機種固有の機能をコントロールするのに使用するメッセージです。本来システムエクスクルーシブは特定の機種に対してのみ有効ですが、メーカーや機種が変わっても共通に使えるユニバーサルシステムエクスクルーシブと呼ばれるメッセージもあります。

本機は、次のエクスクルーシブメッセージに対応しています。

● GM システムオン ([F0][7E][7F][09][01][F7])

外部MIDI機器から本機をGMシステムオンの状態にするユニバーサルシステムエクスクルーシブです。

- ※ GMシステムオンは他のメッセージよりも処理時間がかかります。このためシーケンサーにGMシステムオンを記録する場合は、次のメッセージまで50msec以上間隔をあけるようにしてください。

● GM システムオフ ([F0][7E][7F][09][02][F7])

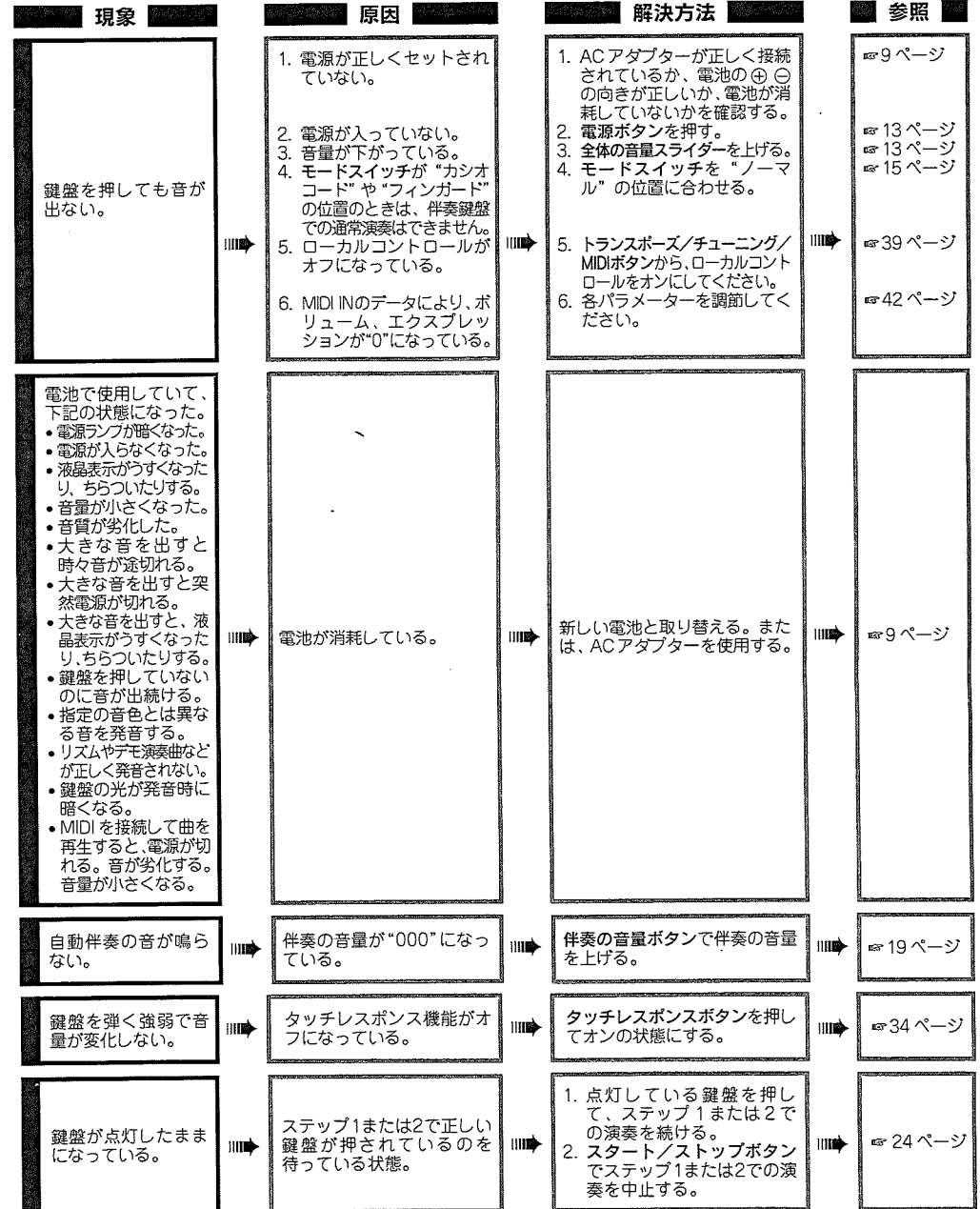
外部MIDI機器から本機をGMシステムオフの状態にするユニバーサルシステムエクスクルーシブです。

● エフェクトチェンジ ([F0][44][0E][09][XX][F7])

内蔵のデジタルエフェクトを切り替えるシステムエクスクルーシブです。上記のシステムエクスクルーシブメッセージの“XX”の欄にエフェクト番号を16進数で入れ、コンピューターなどの外部機器から本機に送信します。それぞれのデジタルエフェクトに対応する16進数は次の通りです。

| 番号 | デジタルエフェクト | 16進数 |
|-----|-----------|------|
| 0 | ルーム | 00 |
| 1 | ステージ | 01 |
| 2 | ホール | 02 |
| OFF | オフ | 0F |

困ったときは



困ったときは

| 現象 | 原因 | 解決方法 | 参照 |
|--|---|---|----------|
| 音が出ていないのに鍵盤が点灯する。 | 電源切り忘れのお知らせ機能が働いている。 | 各ボタンや鍵盤を押すと、電源オン直後の状態に戻る。 | ☞ 10 ページ |
| 他のMIDI楽器と同時に鳴らしたとき、お互いのキーまたはチューニングが合っていない。 | チューニングまたはトランスポーズの設定が“00”以外になっている。 | トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンでトランスポーズとチューニングの設定を“00”にする。 | ☞ 34 ページ |
| 自動伴奏やリズムが録音できない。 | 録音トラックにトラック2を指定している（トラック2はメモディー専用トラックです）。 | 録音待機の状態からトラック指定ボタンでトラック1を選ぶ。 | ☞ 28 ページ |
| コンピューターでGM対応データを再生すると、再生された音と、そのとき光った鍵盤を押したときに、発音される音がずれている。 | サウンドレンジシフトがない。 | トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンで、サウンドレンジシフトを設定しなおす。 | ☞ 41 ページ |
| コンピューターとMIDI接続しているとき、鍵盤を弾くと発音が不自然になる。 | コンピューター側のMIDIスルー機能がオンになっている。 | コンピューター側のMIDIスルー機能をオフにするか、本機のトランスポーズ/チューニング/MIDIボタンでローカルコントロールをオフにする。 | ☞ 39 ページ |
| コード伴奏の演奏情報をコンピューターに録音できない。 | ア坎ブMIDIアウトがオフになっている。 | トランスポーズ/チューニング/MIDIボタンでア坎ブMIDIアウトをオンにする。 | ☞ 39 ページ |

資料

トーンリスト

音色番号 080～103 および 112～127 の音色名は、下記のリストをご参照ください。

| | | | |
|---|--|--|---|
| シンセリード 080-087 | 089 ウォームパッド 090 ポリシンセ 091 スペースクワイア 092 ボウグラス 093 メタリックパッド 094 ヘイロパッド 095 スイープパッド | 100 ブライトネス 101 ゴブリン 102 エコー 103 サイエンスフィクション | 119 リバースシンバル |
| 080 スクエアウェーブ 081 ソートゥースウェーブ 082 カリオバ 083 チフリード 084 チャラン 085 ボイスリード 086 フィフスリード 087 ベース+リード | 096 レインドロップ 097 サウンドトラック 098 クリスタル 099 アトモスフィア | 112 ティンクルベル 113 アゴゴ 114 スチールドラム 115 ウッドブロック 116 太鼓 117 メロディックタム 118 シンセドラム | サウンドエフェクト 120-127 120 ギターフレットノイズ 121 プレスノイズ 122 シーショアー 123 バード 124 テレホン 125 ヘリコプター 126 アブローズ 127 ガンショット |
| シンセパッド 088-095 | シンセSFX 096-103 | バーカッシブ 112-119 | |
| 088 ニューエイジ | | | |

リズムリスト

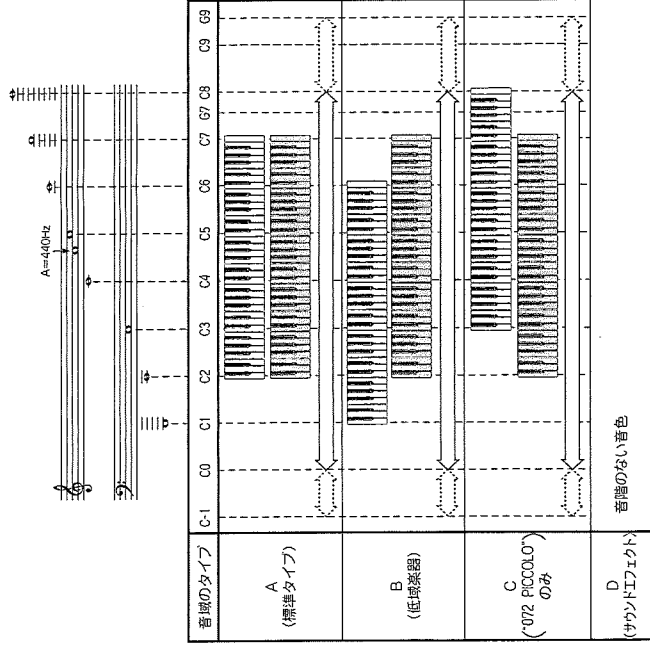
リズム番号 00～99 のリズム名は、下記のリストをご参照ください。

| | | | |
|---|---|--|--|
| ポップス I | 24 ディスコ 25 ユーロビート 26 ラップ 27 トランス 28 ファンク 29 ベリーファンキー | ジャズ/フュージョン | 74 ジャズサンバ 75 マンボ 76 ルンバ 77 チャチャチャ 78 メレンゲ 79 ボレロ |
| 00 ポップス 1 01 ワールドポップ 02 ソウルバラード 1 03 ポップシャッフル 04 ポップバラード 05 ポップス 2 06 バラード 07 フュージョンシャッフル 08 ポップス 3 09 ソウルバラード 2 | ロック I | 50 ビッグバンド 51 ジャズボイス 52 スロースイング 53 スイング 1 54 スイング 2 55 フォックストロット 56 モダンジャズ 57 アシッドジャズ 58 ラテンフュージョン 59 ジャズワルツ | ラテン II/その他 I |
| ポップス II | 30 ロックワルツ 31 スローロック 1 32 スローロック 2 33 ソフトロック 1 34 ソフトロック 2 35 ソフトロック 3 36 フォーキーポップ 37 ポップロック 1 38 60'Sソウル 39 ポップロック 2 | ヨーロピアン | 80 サルサ 81 レゲエ 82 プンタ 83 クンビア 84 バンドブレ 85 ルンバカタラナ 86 セビリャナ 87 スカ 88 テックスメックス 89 フォルクローレ |
| 10 16 ビート 1 11 16 ビート 2 12 16 ビート 3 13 8 ビート 1 14 8 ビート 2 15 8 ビート 3 16 ポップス 4 17 ダンスポップ 18 ポップフュージョン 19 ポップワルツ | ロック II | 60 ボルカ 1 61 ボルカ 2 62 マーチ 1 63 マーチ 2 64 ワルツ 1 65 ワルツ 2 66 ワルツ 3 67 ワルツ 4 68 セレナード 69 タンゴ | その他 II |
| ダンス/ファンク | 40 ロック 1 41 ロック 2 42 ポップロック 3 43 リフロック 44 ヘビーメタル 45 50'Sロック 46 ツイスト 47 ニューオーリンズロック 48 シカゴブルース 49 リズム&ブルース | ラテン I | 90 カントリー 91 フルークラス 92 タウンシップ 93 ゴスペル 1 94 ゴスペル 2 95 ライ 96 アダニ 97 パラディ 98 演歌 99 ストリングカルテット |

Table with 4 columns: 音色番号 (Color No.), 音色 (Color Name), 音域タイプ (Pitch Type), 音域 (Pitch Range). It lists various drum sounds like 'STANDARD SET', 'SCRATCH RUSH', 'METRONOME CLICK', etc., with their corresponding color numbers and pitch ranges.

NOTE

- 音域のタイプ (A~D) は右の表を参照してください。
音色番号 128~136 のドラム音色の最大同時発音数は、12 です。
音域のタイプ B と C の音色はサウンドレンジソフト (41 ページ) の設定で 1 オクターブ音域がずれま



- a鍵盤演奏時の音域 (サウンドレンジ シフト オン)
b鍵盤演奏時の音域 (サウンドレンジ シフト オフ)
c発音可能音域 (トランスポーズ、MIDIの受信時)
dc の範囲の一番近い同名の音に置き代わる音域 (トランスポーズ、MIDIの受信時)

ドラム音色リスト

Large table listing 88 drum sounds (E1 to E8) with columns for Drumset 1-9 and their respective sets (e.g., STANDARD SET, ORCHESTRA SET, VOICE SET).

フィンガーコード一覧表

よく使われるコードの名キーでの押さえ方です(断り形も含まれています)。

| コード (和名) | メジャー (7) | m (7) | dim7 (7) | M7 (7) | m7-5 (7) | dim (7) | aug (7) | SUS4 (7) | 7sus4 (7) | m add9 (7) | mM7 (7) | 7-5 (7) | add9 (7) |
|-------------|-------------|----------|-------------|-----------|-------------|------------|------------|-------------|--------------|---------------|------------|------------|-------------|
| C | | | | | | | | | | | | | |
| C#(D♭) | | | | | | | | | | | | | |
| D | | | | | | | | | | | | | |
| (D#)E | | | | | | | | | | | | | |
| E | | | | | | | | | | | | | |
| F | | | | | | | | | | | | | |
| F#(G♭) | | | | | | | | | | | | | |
| G | | | | | | | | | | | | | |
| (G#)A | | | | | | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | | | | | | |
| (A#)B | | | | | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | | | | | |

※ 半奏強の範囲で、「フィンガーコード」では指定できません。
このコードを含む曲では、「フルレンジコード」(17ペーシ参照)をご利用ください。

カシオ電子楽器用ソフトのご紹介

■楽譜集

やさしく弾けるファミリーキーボードライブラリーカシオトーンランドシリーズ

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--|---|
| CFL-101YC ようこそカシオトーンランドへ | CFL-102HC 初めてのカシオトーン | CFL-103KU こどものうた 1 | CFL-104KU こどものうた 2 | CFL-105TV TVソング 1 | CFL-106YH ヤングベストヒット 1 | CFL-107HP ヒットポップス |
| (子供用入門) 大きな栗の木の下で 茶色のごびん かつこう 他全37曲 | (大人用入門) 河は叫んでる 500マイルはなれて 駅馬車 他全35曲 | アイアイ いぬのおまわりさん ぞうさん 他全45曲 | 春がきた 赤とんぼ ハイ・ロー 他全44曲 | となりのトトロ 勇気のしるし おどるポンポコリン 他全30曲 | OH YEAH! あー 夏休み 千流の唄 他全22曲 | すべてをあなたに やさしく歌って レット・イット・ビー 他全29曲 |
| CFL-108NM ニューミュージック | CFL-109EL イージーリスニング | CFL-110KH カラオケヒット | CFL-111HS ヒットソング 1 | CFL-112HS ヒットソング 2 | CFL-113RK 永遠のロック | |
| いとしのエリー ANNIVERSARY SUMMER CANDLES 他全24曲 | オリーブの首飾り マイ・ウェイ ある愛の詩 他全29曲 | 釜山港へ帰れ つくない 別れても好きな人 他全30曲 | 君がいるだけで それが大事 ラブストーリーは突然に 他全20曲 | SAY YES どんなときも 会いたい 他全21曲 | 青い影 キララ・クイーン スモーク・オン・ザ・ ウォーター 他全21曲 | |

★上記ご案内は、本書印刷時点でのものです(万一品切れの際はご容赦ください)。

★別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店(全国の有名楽器店、デパート)でお求めになれます。

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

- テレビやラジオの近くでは使わないでください。
テレビやラジオの画像や音が、乱れることがあります。
そのようなときは、テレビやラジオから充分に離れてお使いください。
- お手入れにベンジンなどの化学薬品を使わないでください。
鍵盤などのお手入れは、柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞って拭いてください。ベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は絶対にご使用にならないでください。
- 極端に温度の高い場所や低い場所では使わないでください。
液晶表示がうすくなり、見づらくなります。そのようなときは、常温にすると液晶表示はもとに戻ります。

ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

音のエッジゲッ

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓をしめたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になる場合は、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

製品仕様

| | |
|--|--|
| 型式 | LK-65/LK-70BL |
| 鍵盤 ・光鍵盤 | 61鍵 5オクターブ(標準鍵)……タッチレスボンス機能付き(オン/オフ) 同時発光数(最大10鍵)、オン/オフ設定可 |
| 音色数 | 128GM音色+9ドラム音色(計137音色)……レイヤースプリット可 |
| リズム楽器音色数 | 61音色 |
| 同時発音数 | 最大24音(一部音色により最大12音) |
| デジタルエフェクト | リバーブ3種類(ホール、ステージ、ルーム) |
| 自動伴奏機能 ・リズムパターン数 ・テンポ ・コード ・リズムコントローラー ・伴奏の音量 | 100種類 可変(216段階) ♪ = 40~255) 3種類(カシオコード/フィンガード/フルレンジコード) スタート/ストップ、イントロ、ノーマル/フィルイン、バリエーション/フィルイン、シンクロ/エンディング 0~127(128段階) |
| 3ステップレッスン機能 ・再生方式 | 3種類(ステップ1、2、3) 1曲繰り返し再生 |
| ソングバンク機能 ・ソング数 ・コントローラー | LK-65:120曲、LK-70BL:125曲 演奏一時停止、停止、早戻し、早送り、左手、右手 |
| ミュージカルインフォメーション機能 ・バックライト | 音色、自動伴奏、ソングバンクの番号および名称、五線譜、テンポ、メトロノーム、小節数、拍子、 ステップレッスン表示、コード名、強弱記号、連指、ペダル 5色(可変) |
| メトロノーム機能 ・拍子設定 | オン/オフ 1、2、3、4、5、6拍子 |
| メモリー機能 ・曲数 ・録音トラック数 ・録音方法 ・メモリー容量 | 2曲 2(CHORD:1、2) リアルタイム録音 約5200音符(2曲合計) |
| MIDI機能 | 16マルチティンバー受信、GMレベル1準拠 |
| その他の機能 ・トランスポーズ機能 ・チューニング機能 | 25段階(-12半音~0~+12半音) 101段階可変……A4=約440Hz±50セント |
| 端子 ・MIDIイン/アウト端子 ・アサイナブル端子 ・ヘッドホン・アウトプット端子 ・電源端子 | IN、OUT 標準ジャック(サスティン、ソステヌート、ソフト、リズムのスタート/ストップ) ステレオ標準ジャック 出力インピーダンス100Ω 出力電圧4.5V(RMS)MAX DC9V |
| 電源 ・電池 ・家庭用100V電源使用 ・オートパワーオフ機能 | 2電源方式 単1形電池6本使用 電池持続時間:約4時間……マンガン電池使用時 ACアダプターAD-5JLを使用 約6分後(電池使用時) キャンセル可能 |
| スピーカー出力 | 2.5W+2.5W |
| 消費電力 | 9V ≡ 7.7W |
| サイズ | 幅96.1×奥行き37.5×高さ14.3cm |
| 重量 | 約5.6kg(電池含まず) |
| 付属品 | 諸面立て、ACアダプター(AD-5JL)、取扱説明書(本書)、保証書、楽譜集 |

★改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。

| 別売品のご案内 | 商品名 | 品番 |
|---------|------------------|---------|
| | ヘッドホン | CP-3A |
| | サスティンペダル | SP-2 |
| | | SP-10 |
| | ソフトケース | SC-550B |
| | スタンド | CS-4B |
| | | CS-7W |
| | | CS-10 |
| | | CS-22 |
| | FDプレーヤー | FD-1 |
| | FD-1用取付けアジャスター | AH-1 |
| | MIDIケーブル | MK-5 |
| | 楽譜集は前ページをご覧ください。 | |

★別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店(全国の有名楽器店、デパートなど)でお求めになれます。

CASIO

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA0006-A Printed in Malaysia
LK65/70BL-JA-1
4181-921-0-01